



日中笹川医学協カプロジェクト

# 笹川医学奨学金進修生同学会事業

2021 年度事業報告書

笹川医学奨学金進修生同学会

公益財団法人 日中医学協会

# 目次

1 短期診療技術研修.....	1
1.1 呼吸器疾患研修(北京市).....	2
1.2 腹腔鏡(婦人科)実用技術研修(吉林省).....	4
1.3 睡眠呼吸障害研修(新疆ウイグル自治区).....	6
1.4 大腸がん研修(北京市).....	7
1.5 内視鏡(下部消化管)研修(陝西省).....	8
2 中長期研修.....	9
2.1 高血圧研修(新疆ウイグル自治区人民医院).....	10
2.2 産科研修(吉林大学第一医院).....	11
2.3 腹腔鏡(肝胆膵)研修(中南大学湘雅第二医院).....	12
2.4 内視鏡(上部消化管)研修(西安交通大学第二附属医院).....	13
3 地域医療支援活動.....	14
3.1 新疆ウイグル自治区医療支援活動.....	15
3.2 四川省医療支援活動①.....	16
3.3 四川省医療支援活動②.....	17
4 支部学術会議.....	18
4.1 西南地区支部学術交流会.....	19
4.2 華南地区支部学術交流会.....	22
4.3 華東地区支部学術交流会.....	26
4.4 華中地区支部学術交流会.....	29
4.5 西北地区支部学術交流会.....	32
4.6 日本支部学術交流会.....	35
5 日中共同フォーラム.....	37
5.1「大健康」フォーラム.....	38
6 広報活動.....	44
6.1 『笹川生通訊』.....	45

# 1 短期診療技術研修

# 1 短期診療技術研修

## 1.1 呼吸器疾患研修(北京市)

期 間	2021年6月16日(水)～2021年6月18日(金)
会 場	中日友好医院
実施責任者	楊 汀 中日友好医院呼吸センター臨床診療部主任医師
受 講 者	呼吸重篤症科医師50名
研 修 内 容	<p>中日友好医院の講師陣による座学</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1)「ポータブル呼吸機能検査測定器の使用と品質管理」 李 勇 技師長</li> <li>2)「呼吸リハビリテーションの概要とプロセス」 楊 汀 主任医師</li> <li>3)「COPD リハビリテーションに関する多施設共同研究」 曲木詩瑋 医師</li> <li>4)「体力評価」 楊露露 医師</li> <li>5)「心肺持久力評価」 何佳澤 医師</li> <li>6)「アンケート評価」 時明慧 医師</li> <li>7)「COPD の病態生理学的変化」 黄 可 主治医師</li> <li>8)「心肺運動テスト」 張曉雷 副主任医師</li> <li>9)「呼吸筋の評価」 曲木詩瑋 医師</li> <li>10)「肺と横隔膜の超音波評価」 鄭宇靚 主治医師</li> <li>11)「気道クリアランス法」 司徒炫明 主治医師</li> <li>12)「嚥下障害のスクリーニングと介入」 敖純利 教授</li> <li>13)「リハビリテーション処方」 司徒炫明 主治医師</li> <li>14)「姿勢矯正と呼吸機能」 郭 丹 教授</li> <li>15)「栄養サポートによる呼吸リハビリテーション」 石 勳 副主任医師</li> <li>16)「COPD 患者における精神障害の評価と介入」 鉄常楽 副主任医師</li> <li>17)「呼吸リハビリテーションの自己管理」 牛宏濤 医師</li> <li>18)「在宅リハビリテーションと遠隔リハビリテーション」 楊露露 医師</li> <li>19)「中国における COPD の診断及び治療ガイドライン(2021 年版)改訂点」 楊 汀 主任医師</li> <li>20)「COPD 安定期の管理」 黄 可 主治医師</li> <li>21)「COPD 急性増悪の治療」 黄 絮 副主任医師</li> <li>22)「末期 COPD に対する肺移植」 陳文慧 副主任医師</li> </ol>





集合写真と講義

報告: 研修生にとって非常に需要度の高いテーマで講義が行われ、研修生から「多くの知識を習得でき、とても満足のいく研修だった。頻繁に開催してほしい」との声が多く寄せられた。

## 1 短期診療技術研修

### 1.2 腹腔鏡(婦人科)実用技術研修(吉林省)

期 間	2021年6月26日(土)
会 場	新民賓館
実施責任者	李 娜 吉林大学第一医院婦産科主任医師(第25期生)
受 講 者	産科・婦人科医師57名(吉林省)
研 修 内 容	<p>吉林大学第一医院の先生方による講義</p> <p>1)「子宮鏡下手術の手術手技と合併症対処法」 王麗娜 吉林大学第一医院教授 (第26期笹川生, 2003年 国立感染症研究所遺伝解析室 留学)</p> <p>2)「婦人科腹腔鏡下手術のベーシックテクニク」 張利群 吉林大学第一医院准教授</p> <p>3)「胎児心拍数モニタリングの判読法と臨床における意義」 舒 暢 吉林大学第一医院教授</p> <p>4)「子宮鏡下手術によるリング抜去」 範艷艷 吉林大学第一医院主治医師</p> <p>5)「ハイリスク妊婦専用分娩室の設置」 高永梅 吉林大学第一医院教授</p> <p>6)「分娩後出血の治療方法と手術手技」 何 津 吉林大学第一医院教授</p> <p>7)「産科鉗子の手技習得とデモンストレーション」 袁 卓 長春市婦産医院主任医師</p> <p>8)「リプロダクションセンターにおける腹腔鏡下手術と子宮鏡下手術の併用」 朱繼紅 吉林大学第一医院教授</p> <p>9)「子宮頸管縫縮術の手術手技とデモンストレーション」 冷宗祥 吉林省婦幼保健院教授</p> <p>10)「腹腔鏡下骨盤リンパ節郭清術」 魏振彤 吉林大学第一医院副教授</p> <p>11)「腹腔鏡下帝王切開癒痕部修復術の手術手技」 李 娜 吉林大学第一医院主任医師 (第25期笹川生, 2002年 東京大学医学部附属病院女性外科 留学)</p>



講義



集合写真

報告: 吉林大学第一医院のご協力のもと、研修生にとって非常に需要度の高いテーマで講義が行われ、研修生からは、「研修では多くの知識や技術を学んだだけでなく、医師としての責任の重さと患者とのコミュニケーションの大切さも学んだ。ぜひとも今後の臨床業務に生かして、医療サービス向上に努めていきたい」との感想が寄せられた。

## 1 短期診療技術研修

### 1.3 睡眠呼吸障害研修(新疆ウイグル自治区)

期 間	2021年7月29日(木)～2021年8月3日(火)
会 場	新疆ウイグル自治区人民医院高血压センター
実施責任者	李南方 新疆ウイグル自治区人民医院副院长・高血压センター長 (第7期、第40期生)
受講者	内科医師39名(新疆ウイグル自治区)
研修内容	新疆ウイグル自治区人民医院高血压センターの講師陣によるハイブリッド形式による講義



集合写真

報告: 本研修にはハイブリッド形式による講義と現場で直接指導を行い、より多くの中国国内専門家の授業を受けられ、一方でより多くの県レベルの医師が受講できた。研修生の睡眠呼吸障害に対する最新診断技術を大いに高め、新疆の医学発展にも繋がった。



# 1 短期診療技術研修

## 1.4 大腸がん研修(北京市)

期 間	2022年3月23日(水)
会 場	中日友好医院
実施責任者	王 佩 中日友好医院弁公室国際交流合作弁公室主任
受 講 者	外科医師51名
研 修 内 容	中日友好医院、解放軍総医院等の講師陣によるハイブリッド形式の講義



会場内

報告: 午前中の学術シンポジウムでは大腸直腸がんの術後の生活クオリティと腹腔鏡による左半分直腸がん根治術の討論にテーマし、活発なディスカッションが行われた。午後は CACA 中国大腸直腸がん専門ガイドラインについて検討した。

# 1 短期診療技術研修

## 1.5 内視鏡(下部消化管)研修(陝西省)

期 間	2022年3月26日(土)
会 場	西安交通大学第二附属医院(陝西省西安市)
実施責任者	張 軍 西安交通大学第二附属医院消化器内科教授、主任医師(第11期生)
受 講 者	内科医師100名
研 修 内 容	西安交通大学第二附属医院、西安医学院第一附属医院等の講師陣によるオンライン講義



オンライン講義

報告:内視鏡診断から標準治療、合併症予防から安全手術まで、典型的な症例と合わせた内容が豊かな講義だった。学术交流の目的を達成し、良い研修成果を得て、医師たちは研修に非常に熱心だった。最後に、西安交通大学第二附属医院の張軍教授は、笹川医学奨学金で日本に留学した経験を紹介し、技術を研鑽し、臨床診断能力を高め、人々の健康レベルを改善することを目標としてくださいと医師たちを励ました。

## 2 中長期研修

## 2 中長期研修

### 2.1 高血圧研修(新疆ウイグル自治区人民医院)

期 間	2021年5月～2021年11月
場 所	新疆ウイグル自治区人民医院
実施責任者	李南方 新疆ウイグル自治区人民医院高血圧センター長、 新疆高血圧研究所所長(第7期生・第40期生<共同研究コース>)
受講者	劉豊(新疆ウイグル自治区巩留县人民医院住院医師) 張滢玉(新疆ウイグル自治区額敏县人民医院住院医師)
研修内容	二次性高血圧症の臨床研修



直接指導



## 2 中長期研修

### 2.2 産科研修(吉林大学第一医院)

期 間	2021年6月～2021年11月
場 所	吉林大学第一医院
実施責任者	李 娜 吉林大学第一医院婦産科主任医師(第 25 期生)
受 講 者	梁冰(吉林省長春市南関区婦幼保健院医師) 王丹(吉林省長春市全安社区卫生サービスセンター医師)
研 修 内 容	産科の臨床研修



直接指導

## 2 中長期研修

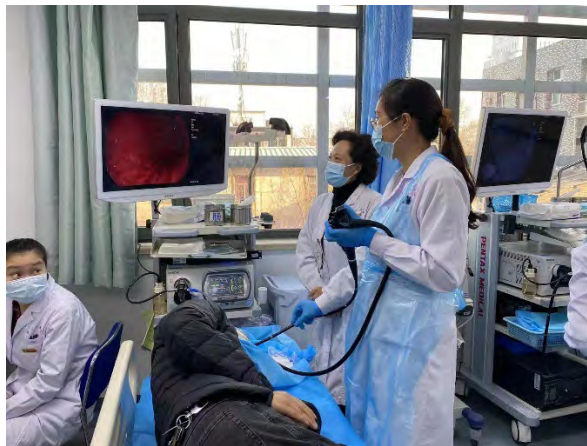
### 2.3 腹腔鏡(肝胆膵)研修(中南大学湘雅第二医院)

期 間	2021年9月～2022年3月
場 所	中南大学湘雅第二医院(湖南省長沙市)
実施責任者	李永国 中南大学湘雅第二医院一般外科教授(第1期生)
受 講 者	程秋華(海南省海口市人民医院医師) 李莎(湖南省益陽市第四人民医院医師)
研 修 内 容	腹腔鏡(肝胆膵)の臨床研修

## 2 中長期研修

### 2.4 内視鏡(上部消化管)研修(西安交通大学第二附属医院)

期 間	2021年10月～2022年3月
場 所	西安交通大学第二附属医院(陝西省西安市)
実施責任者	張 軍 西安交通大学第二附属医院消化器内科教授、主任醫師(第11期生)
受 講 者	黃啓鵬(陝西省延安市吳起県人民医院醫師) 李曉敏(陝西省延安市吳起県人民医院醫師)
研 修 内 容	内視鏡(上部消化管)の臨床研修



直接指導

### 3 地域医療支援活動

### 3 地域医療支援活動

#### 3.1 新疆ウイグル自治区医療支援活動

期 間	2021年6月11日(金)
会 場	新疆瑪納斯中医医院(新疆ウイグル自治区瑪納斯県)
実施責任者	李南方 新疆ウイグル自治区人民医院副院长・高血压センター長 (第7期、第40期生)
参加者	50名(瑪納斯県の県レベルの病院に勤務する医師)
活動内容	李南方センター長はじめ高血压センター医師ら6名が高血压治療についての講義を行った他、グループに分かれて瑪納斯県の3つの郷鎮衛生院に赴き、実地指導を行った。また、各郷鎮衛生院に教材と電子血圧計を寄贈した。



問診



教材と電子血圧計を寄贈した



集合写真

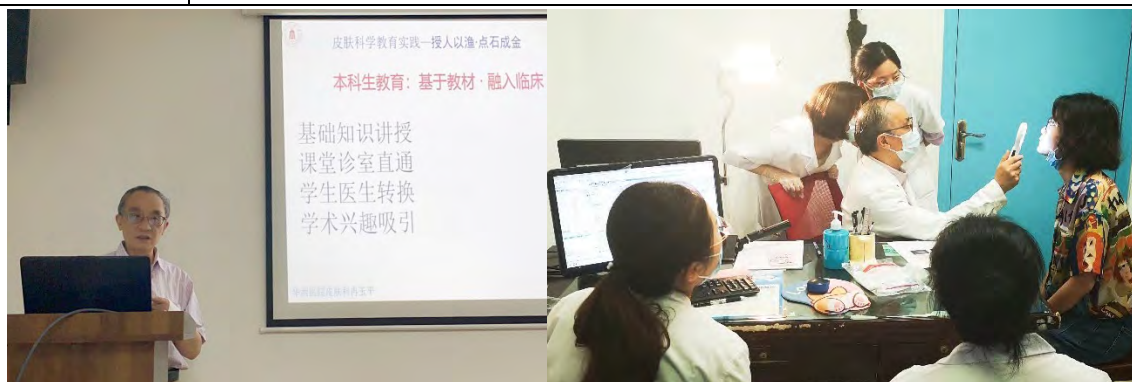
報告: 今回の地域医療支援活動では累計 300 名あまりの患者が恵まれて、現地医療従事者及び市民に高血压の危険性を周知され、現地政府関係者及び市民に称賛された。



### 3 地域医療支援活動

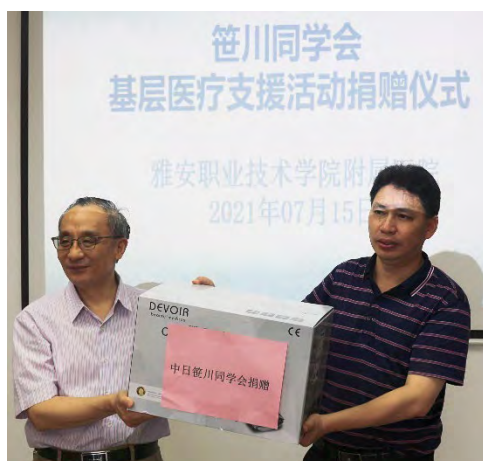
#### 3.2 四川省医療支援活動①

実施日	2021年7月15日(木)
場所	雅安職業技術学院附属医院(四川省雅安市)
実施責任者	冉玉平 四川大学華西医院皮膚性病科教授(第4期生)
参加者	20名(雅安職業技術学院附属医院皮膚科医師・看護師)
活動内容	冉玉平教授が診療指導を行った後、皮膚科教育について講義を行った。また、皮膚科治療機器、コールドスプレーヤを寄贈した。



冉玉平教授による講義

現地医師と病棟回診



寄贈式



集合写真

### 3 地域医療支援活動

#### 3.3 四川省医療支援活動②

実施日	2022年3月17日(木)
場所	雅安職業技術学院附属医院
実施責任者	冉玉平 四川大学華西医院皮膚性病科教授(第4期生)
参加者	40名(雅安職業技術学院附属医院皮膚科医師・看護師及び雅安市の皮膚科医)
活動内容	冉玉平教授がオンラインで講義を行った後、雅安職業技術学院附属医院皮膚科医の難治疾患症例報告に対して講評を行った。また、冉教授の著書と皮膚科治療機器を寄贈した。



オンライン講義



症例指導



贈呈式

## 4 支部学术會議



## 4 支部学術会議

### 4.1 西南地区支部学術交流会

開催日	2021年1月23日(日)
場所	四川省(成都市)、雲南省(昆明市)、貴州省(貴陽市)、重慶市
実施責任者	劉愛民 中国医学科学院輸血研究所血液安全處處長(第8期生) 賈立中 昆明医学院第一附属医院放射線科主治医師(第29期生) 陳 覓 貴州医科大学附属医院麻醉科主治医師(第36期生) 熊 宇 陸軍軍医大学第一附属医院口腔科教授(第34期生)
参加者	54名 本部及び四川省、雲南省、貴州省、重慶市の笹川同学会会員
テーマ	COVID-19 対策
プログラム	1)魏于全 中国科学院院士、四川大学教授(第8期生) 「新型コロナウイルスワクチン開発の現状」 2)李 松 昆明医科大学学長、教授(第8期生) 「雲南省における新型コロナウイルス感染症対策」 3)樂榮生 四川大学華西公共衛生学院教授(第2期生) 「新型コロナウイルス感染対策の実践と考察」 4)唐小海 四川羸瑞医薬科技有限公司主任医師、博士(第11期生) 「ナノカーボン-鉄混合懸濁注射液の前臨床試験」会員情報交流
 <p>講演者</p>	



四川会場(リアル+オンライン参加)



雲南会場(リアル+オンライン参加)

報告:支部学術交流会はこれまで、笹川生が各地から一つの会場に集まり、笹川生による講演の後に親睦会を開催し、年齢や日本留学時期に関係なく、一緒に食事をし、お酒を酌み交わして親睦を深め、結束力を高めることが慣習となっていた。しかし、現在中国では、新型コロナウイルス感染拡大防止対策として省を跨ぐ移動が規制されているため、今回の学術交流会は初めての試みとして、四川省(成都市)と雲南省(昆明市)の会場と、貴州省、重慶市をオンラインで結び、ハイブリッド形式で開催した。同省・市在住の笹川生 54 名が参加し、また、北京から笹川同学会の李忠金秘書長と、東京から日中医学協会の事務局もオンラインで参加して、笹川生との交流を深めた。

笹川医学奖学金同学会办公室

地址：北京市海淀区西直门北大街联想路101号西楼  
公寓C座0248  
联系电话：010-62256266 15901208067  
邮箱：sc1000@vip.163.com  
网址：http://www.sskw.net

Supported by  
日本財団  
THE NIPPON  
FOUNDATION

## 2021年度笹川医学奖学金西南地区分会 新冠疫情防控对策研讨会

主办单位：笹川医学奖学金同学会、日中医学协会  
支持单位：国家卫生健康委员会、日本财团  
承办单位：笹川医学奖学金同学会西南地区分会  
2022年1月23日

地点：四川岷山饭店3层 黄龙厅

主会场：成都会场 负责人 刘爱民老师（笹川8期生）

分会场：重庆会场 负责人 熊宇老师（笹川34期生）  
云南会场 负责人 贾立中老师（笹川29期生）  
贵州会场 负责人 陈觅老师（笹川36期生）

主持人：刘爱民老师  
中国医学科学院输血研究所 血液安全处处长（笹川8期生）

9:40—10:20 特别演讲1

题目：新冠病毒疫苗开发的现状  
魏于全 院士 四川大学 教授  
笹川医学奖学金第8期生



10:20—11:00 特别演讲2

题目：云南新冠疫情防控对策  
李松 昆明医科大学 校长 教授  
笹川医学奖学金第8期生



11:00—11:10 休息

11:10—11:40 演讲3

题目：新冠肺炎防控与思考  
栾荣生 四川大学华西公共卫生学院 教授 博导  
笹川医学奖学金第2期生



11:40—12:10 演讲4

题目：纳米碳铁混悬注射液临床前研究  
唐小海 四川赢瑞医药科技有限公司 主任医师 博士  
笹川医学奖学金第11期生



12:10 会议结束

12:20-13:30 午餐

### 会议议程


9:00 报到（签到）

9:30 会议开始  
介绍各会场及嘉宾 刘爱民老师（笹川8期生）  
致辞 李忠金 笹川同学会 秘书长（笹川12期生）



## 4 支部学術会議

### 4.2 華南地区支部学術交流会

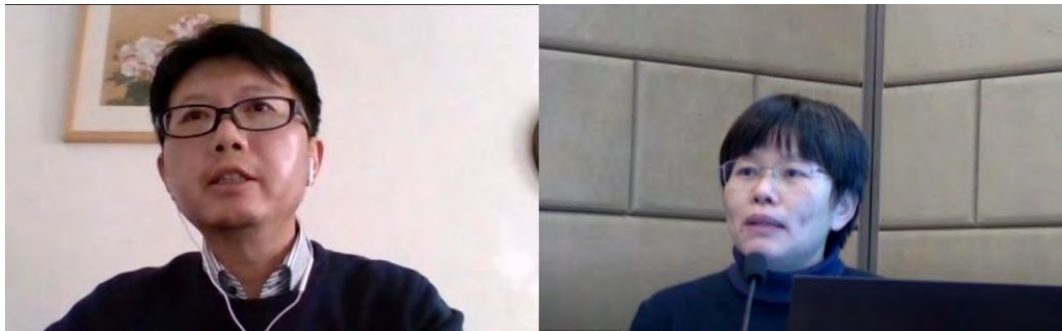
開催日	2022年2月20日(日)
場所	広東省(広州市、深圳市)、海南省(海口市)
実施責任者	王甲東 中山大学教授(第1期生) 李宝光 深圳市第七人民医院泌尿器外科主任(第13期生) 呉 忠 海南省人民医院心内科主任(第22期生)
参加者	52名 広東省、海南省、福建省、広西省の笹川同学会会員
テーマ	痛み対策
プログラム	<p>【特別講演】</p> <p>1) 井関雅子 順天堂大学医学部麻酔科学・ペインクリニック講座教授 「日本の疼痛医療の現状と取り組み」</p> <p>2) 樊碧発 中日友好医院疼痛科主任、全国疼痛診療研究センター主任・教授 「中国における疼痛医学の発展」</p> <p>3) 顔 涌 シンガポール衝心物理治療センター教授 「運動力学の視点から分析した筋骨疼痛の原因」</p> <p>【笹川生による講演】</p> <p>1) 何非方 浙江大学附属邵逸夫医院疼痛科 低髄液圧症候群治療センター主任(第29期生) 「脳脊髄液漏出症/低髄液圧性頭痛の治療・対策」</p> <p>2) 何雁冰 広東薬科大学附属第一医院疼痛科主任(第30期生) 「疼痛科医師として現場で感じること」</p> <p>会員情報交流</p>
	 <p>井関先生</p>



樊先生



顏先生



何非方先生と何雁冰先生



講演会場様子



広州会場集合写真



海南会場集合写真

報告:学術交流会では、伊藤秀俊在中国日本国大使館一等書記官のご挨拶の後、各診療科共通課題である「痛み対策」をテーマに、日中両国の5名の疼痛学専門家による講演が行われた。

日本からは、井関雅子順天堂大学医学部麻酔科・ペインクリニック講座教授が、日本における疼痛医療の歩みと厚生労働省の慢性疼痛対策事業を紹介され、順天堂大学における疼痛医療の取り組みについて具体的にお話しされた。

中国側からは、樊碧菽中日友好医院疼痛科主任が、中国における疼痛医療の取り組みと各地域における痛み診療の教育の推進と発展について、顔涌シンガポール衡心物理治療センター教授が、疼痛緩和に対する運動療法について具体的な症例を用いて紹介された。また、笹川同学会会員2名が所属病院における疼痛医療の実践について紹介した。

参加した笹川生は医師、歯科医師、看護師、薬剤師と、専門もまた専門領域も異なるが、「痛み」は共通の課題であり、皆、講師の話を非常に熱心に真剣に聞いていた。特に、井関先生が紹介された順天堂大学における取り組みは、非常に参考になる内容であったとの感想が多く寄せられた。今後も疼痛医療についての日中交流が継続され、両国の疼痛対策に貢献することを期待する。



### 笹川医学奖学金同学会办公室

地址：北京市海淀区西直门北大街联想大厦 101 号西裙  
公寓 C 座 0248  
联系电话：010-62256266 15901208067  
邮 箱：sc1000@vip.163.com  
网 址：http://www.sskw.net



## 2021 年度笹川医学奖学金同学会华南地区分会 疼痛对策研讨会

主办单位：笹川医学奖学金同学会、日中医学协会  
支持单位：国家卫生健康委员会、日本财团  
承办单位：笹川医学奖学金同学会广东地区分会  
2022 年 2 月 20 日

会议时间：2022 年 2 月 20 日（周日）

会议地点：广州华夏酒店

会议安排：2 月 20 日 14:00 报到  
2 月 20 日 14:30—18:00 学术研讨会  
2 月 20 日 18:00 晚宴

会议主题：疼痛对策研讨会

大会主持人：王甲东 教授（笹川 1 期生）笹川医学奖学金同学会常务理事

深圳分会场：负责人 李宝兴 教授（笹川 13 期生）

海南分会场：负责人 吴忠 教授（笹川 22 期生）

### 会议议程

14:00-14:30 签到

14:30-14:35 致辞 久保 洋介 先生 日中医学协会 参与

14:35-14:40 致辞 伊藤秀俊 先生（日本驻华使馆一等书记官）

14:40-15:30 题目：日本疼痛医疗的现状及举措  
井关 雅子 教授 顺天堂大学医学部附属顺天堂医院  
麻醉科、疼痛专科门诊 教授（医学博士）



15:30-16:10 题目：中国疼痛医学的发展  
樊碧发 教授 中日友好医院疼痛科主任  
全国疼痛诊疗研究中心主任  
国家疼痛专业医疗质量控制中心主任



16:10-16:40 题目：从运动力学角度分析筋骨疼痛的原因  
顾谦 教授 新加坡衡心理疗中心  
创办人和临床总监



16:40-17:10 题目：脊髓脑脊液漏 / 低颅压头痛的治疗策略  
何非方 教授（笹川 29 期生）浙江大学附属邵逸  
夫医院疼痛科 & 颅内低压诊治中心 主任医师  
日本国立冈山大学 海外特任教授



17:10-17:40 题目：一个基层疼痛科医生的几点感悟  
何麗冰 教授（笹川 30 期生）医学博士、副主任医师  
广东药科大学附属第一医院疼痛科主任  
广东省中西医结合学会疼痛专业委员会 常委



17:40-17:45 闭会致辞  
李惠金（笹川 12 期生）笹川医学奖学金同学会 秘书长

17:45-18:00 自由交流

18:00-20:00 晚宴

## 4 支部学術会議

### 4.3 華東地区支部学術交流会

開催日	2022年2月27日(日)
場所	上海市、江蘇省(南京市)、浙江省(杭州市)
実施責任者	孫偉 江蘇省中医院腎内科教授(第18期生) 殷猛 上海交通大学医学院附属上海兒童医学センター教授(第27期生) 何非方 浙江大学附属邵逸夫医院疼痛科低髄液圧症候群治療センター主任 (第29期生)
参加者	62名 本部及び上海市、江蘇省、浙江省の笹川同学会会員 他
テーマ	痛み対策
プログラム	講演①于布為 上海交通大学医学院附属瑞金医院麻醉科教授(第2期生) 「疼痛の生理病理及び診断・治療」 講演②傅海揚 江蘇省中医院教授、主任中醫師 「鍼灸における鎮痛と止痛」 講演③何非方 浙江大学附属邵逸夫医院疼痛科 低髄液圧症候群治療センター主任(第29期生) 「脳脊髄液漏出症/低髄液圧性頭痛の治療・対策」 講演④胡劍麟 上海市第一人民醫院補助生殖科男科副教授(第34期生) 「前立腺炎と骨盤疼痛症候群」 会員情報交流



上海会場様子





南京会場集合写真

報告：講義後、参加者は活発な討論をした。会員たちは、コロナ渦で、ハイブリッド形式で学術交流会ができ、ありがたいと述べていた。

笹川医学奖学金同学会办公室

地址: 北京市海淀区西直门北大街翠明庄101号西楼  
公寓C座0248  
联系电话: 010-62256266 15901208067  
邮箱: sc1000@vip.163.com  
网址: http://www.sskw.net

Supported by  
日本財団  
THE NIPPON  
FOUNDATION

## 2021年度笹川医学奖学金同学会华东地区分会 疼痛对策研讨会



主办单位: 笹川医学奖学金同学会、日中医学协会  
支持单位: 国家卫生健康委员会、日本财团  
承办单位: 笹川医学奖学金华东地区分会  
2022年2月27日

会议时间: 2022年2月27日(周日)

会议地点: 上海喜来登由由酒店

会议安排: 2月27日 13:45 报到  
2月27日 14:00—17:40 学术研讨会  
2月27日 17:40 晚宴

会议主题: 疼痛对策研讨会

主会场 主持人: 殷猛 教授 上海交通大学医学院附属上海儿童医学中心  
心胸外科 (笹川27期生 笹川医学奖学金同学会常务理事)

江苏分会场 负责人: 孙伟 教授 江苏省中医院 肾内科  
(笹川18期生 笹川医学奖学金同学会常务理事)

浙江分会场 负责人: 何非方 教授 浙江大学附属邵逸夫医院 疼痛 & 颅内低压诊治中心  
(笹川29期生 笹川医学奖学金同学会常务理事)

14:20-15:20 题目: 疼痛的生理病理以及疼痛的诊断与治疗  
于布为 教授 (笹川2期生) 上海交通大学医学院  
附属瑞金医院 麻醉科主任 中华医学会麻醉学  
分会主任委员



15:20-16:00 题目: 针灸镇痛和止痛  
傅海扬 教授 江苏省中医院主任中医师 中国针灸  
学会疼痛分会 常务理事



16:00-16:40 题目: 脊髓脑脊液漏 / 低颅压头痛的治疗策略  
何非方 教授 (笹川29期生) 浙江大学附属邵逸  
夫医院 疼痛科 & 颅内低压诊治中心 日本国立冈  
山大学 海外特任教授



16:40-17:20 题目: 前列腺炎和盆腔疼痛综合症  
——如何拯救“男”言之隐  
胡剑麟 副教授 (笹川34期生) 上海市第一人民医院  
辅助生殖科男科 副主任医师



17:20-17:30 闭会总结  
殷猛 教授 (笹川27期生) 笹川医学奖学金同学会常务理事

17:30-17:40 自由交流 (合影)

17:40-19:30 晚宴

### 会议议程

13:45-14:00 签到

14:00-14:10 致辞 久保洋介 先生 日中医学协会 参与

14:10-14:15 致辞 李忠金 先生 (笹川12期生) 笹川医学奖学金同学会 秘书长

14:15-14:20 致辞 孙伟 教授 (笹川18期生) 笹川医学奖学金 同学会华东地区分会 会长

## 4 支部学術会議

### 4.4 華中地区支部学術交流会

開催日	2022年3月6日(日)
場所	河北省(石家庄市)、山東省(済南市)、湖南省(長沙市)
実施責任者	李永国 中南大学湘雅第二医院一般外科教授(第 1 期生) 曹学成 済南軍区総医院骨傷外科教授(第 18 期生) 孟召偉 天津医科大学総医院核医学科教授(第 30 期生) 張振喜 河北省疾病予防コントロールセンター設備物資部主任、 教授(第 33 期生) 許文成 湖北省中医院薬学部主管薬師(第 38 期生)
参加者	58名 天津、河北省、山東省、湖南省、湖北省の笹川同学会会員 他
テーマ	COVID-19 対策
プログラム	講演①回愛民 復星医薬執行総裁、教授(第 6 期生) 「COVID-19 mRNA ワクチン(BNT132b2) —全世界の協力と中国の貢献」 講演②李永国 中南大学湘雅第二医院一般外科教授(第 1 期生) 「COVID-19 がもたらす思考と啓示」 講演③劉曉強 天津医科大学総医院泌尿器外科教授(第 28 期生) 「天津医科大学総医院の市南部における COVID-19 医療支援、 大晦日前の勝負」 講演④李 岩 山東省疾病予防コントロールセンター設備物資部主任、 教授(第 33 期生) 「COVID-19 常態化におけるワクチン接種戦略分析」 会員情報交流



オンライン参加者



湖南省会場様子



山東省会場集合写真

報告：中国国内で初 Omicron 株クラスターは 2022 年 1 月 8 日天津市で発見され、今回のテーマを「COVID-19 対策」と選定した。会員たちの関心を寄せられ、参加人数がとても多く、討議も活発だった。



笹川医学奖学金同学会办公室

地址: 北京市海淀区西直门北大街顺源里 101 号西峰  
公寓 C 座 0248  
联系电话: 010-62256266 15901208067  
邮箱: sc1000@vip.163.com  
网址: http://www.sskw.net



## 2021 年度笹川医学奖学金同学会 天津、河北、山东、湖南、湖北地区分会 抗击新冠疫情研讨会



主办单位: 笹川医学奖学金同学会、日中医学协会  
支持单位: 国家卫生健康委员会、日本财团  
承办单位: 笹川医学奖学金天津地区分会  
2022 年 3 月 6 日

会议时间: 2022 年 3 月 6 日 (周日)

会议地点: 天津东凯悦酒店


会议安排: 3 月 6 日 8:45 报到  
3 月 6 日 9:00—11:50 学术研讨会  
3 月 6 日 12:00 午餐


会议主题: 抗击新冠疫情研讨会


主会场 主持人: 孟召伟 教授 天津医科大学总医院 核医学科 (笹川 30 期生  
笹川医学奖学金同学会常务理事)  
山东分会场 负责人: 曹学成 教授 济南军区总医院骨创伤外科 (笹川 16 期生 笹川  
医学奖学金同学会常务理事)  
河北分会场 负责人: 张振喜 教授 河北省疾病预防控制中心 (笹川 14 期生 笹川  
医学奖学金同学会常务理事)  
湖南分会场 负责人: 李永国 教授 湖南旺旺医院 外科 (笹川 1 期生 笹川医学  
奖学金同学会常务理事)  
湖北分会场 负责人: 许文成 主管药师 湖北省中医院 药学部 (笹川 38 期生 笹川  
医学奖学金同学会青委会理事)


### 会议议程


8:45-9:00 签到  
9:00-9:05 致辞 冈田光子 女士 日中医学协会 事务局长  
9:05-9:10 致辞 李忠金 先生 (笹川 12 期生) 笹川医学奖学金同学会 秘书长

9:10-9:40 题目: 异军突起的 mRNA 新冠疫苗 BNT162b2  
- 全球合作与中国的贡献  
回爱民 教授 (笹川 6 期) 复星医药执行总裁,  
科学委员会主任, 全球研发总裁兼首席医学官 

9:40-10:10 题目: 新冠疫情带来的思考与启示  
李永国 教授 (笹川 1 期)  
湖南旺旺医院 外科 主任医师 

10:10-10:40 题目: “抗疫”一追两云雨,  
“吉津”何曾是两乡?  
顾锐 教授 (笹川 28 期) 中日联谊医院副院长  
中国医师协会骨科医师分会脊柱学组委员 

10:40-11:10 题目: 天总摆清南, 决胜除夕前  
刘敬强 教授 (笹川 28 期)  
天津医科大学总医院 泌尿外科 主任医师 

11:10-11:40 题目: 新冠疫情常态化防控背景下的新冠疫苗换  
种策略分析  
李岩 教授 (笹川 33 期)  
山东省疾控中心设备物资部 (生物办) 主任 

11:40-11:50 会议总结  
孟召伟 教授 (笹川 30 期 笹川医学奖学金同学会常务理事)

11:50-12:00 自由交流及合影

12:00-14:00 午餐

## 4 支部学術会議

### 4.5 西北地区支部学術交流会

開催日	2022年3月20日(日)
場所	山西省(太原市)、新疆ウイグル自治区(ウルムチ市)
実施責任者	李国棟 西安交通大学外国語学院副教授(第16期生) 李燕萍 山西省衛生庁国際交流センター教授(第22期生) 李南方 新疆ウイグル自治区人民医院高血压センター長、 新疆高血压研究所所長(第7期生・第40期生<共同研究コース>) 趙傑剛 河南科技大学第一附属医院教授(第8期生)
参加者	47名 本部及び甘肅省、寧夏自治区、青海省、陝西省、新疆ウイグル自治区、山西省の笹川同学会会員 他
テーマ	COVID-19 対策
プログラム	開会挨拶 李国棟 西安交通大学外国語学院教授(第16期生) 李忠金 笹川同学会秘書長(第12期生) 特別講演①周紅艷 西安交通大学第一附属医院血管外科副主任看護師 「COVID-19 対策-私たちの使命と役割」 講演②趙傑剛 河南科技大学第一附属医院教授(第8期生) 「COVID-19 制圧に向けて」 講演③朱舜明 西京医院心内科副主任医師(第39期生) 「西安における COVID-19 対策の記録」 講演④成 穎 西安交通大学第二附属医院耳鼻咽喉科副主任医師(第38期生) 「COVID-19 の水際対策とリバウンド防止」 講演⑤劉雨桐 西安交通大学外国語学院日本語専門修士、 杏林大学大学院博士課程在籍(第41期生) 「日本の COVID-19 対策」 講演⑥牛晨雨 西安交通大学外国語学院修士課程在籍 「コロナ禍での学園生活—教師と生徒の COVID-19 対策」 会員情報交流



山西省会場様子



山西省会場集合写真

報告：参加者は日中両国のコロナ感染状況の推移及び両国の政策について、理解を深め、活発な討論を行った。



### 笹川医学奖学金同学会办公室

地址: 北京市海淀区西直门北大街联想路101号西峰公寓C座0248  
联系电话: 010-62256266 15901208067  
邮箱: sc1000@vip.163.com  
网址: http://www.sskw.net

Supported by  
日本財団  
THE NIPPON  
FOUNDATION

## 2021年度笹川医学奖学金西北地区分会 抗击新冠疫情研讨会

主办单位: 笹川医学奖学金同学会、日中医学协会  
支持单位: 国家卫生健康委员会、日本财团  
承办单位: 笹川医学奖学金西北地区分会  
2022年3月20日

会议时间: 2022年3月20日(周日)

会议地点: 西安宾馆

会议安排: 3月20日 13:45 报到  
3月20日 14:00—17:40 学术研讨会  
3月20日 17:40 晚宴

会议主题: 抗击新冠疫情研讨会

主会场 主持人: 李国栋 副教授 西安交通大学外国语学院(笹川16期生 笹川医学奖学金同学会常务理事)  
山西分会场 负责人: 李燕萍 教授 山西省卫生厅国际交流中心(笹川22期生 笹川医学奖学金同学会常务理事)  
新疆分会场 负责人: 李南方 教授 新疆维吾尔自治区人民医院高血压中心, 新疆高血压研究所(笹川7期生 笹川医学奖学金同学会常务理事)  
河南分会场 负责人: 葛杰刚 教授 河南科技大学第一附属医院(笹川8期生 笹川医学奖学金同学会理事)

### 会议议程

13:45-14:00 签到

14:00-14:10 致辞 冈田光子 女士 日中医学协会 事務局次长

14:10-14:15 致辞 李忠金 先生(笹川12期) 笹川医学奖学金同学会 秘书长

14:15-14:20 致辞 张军 教授(笹川11期) 西安交通大学医学院第二附属医院

14:20-15:00 题目: 疫情防控——我们的使命与担当  
周红艳 副主任护理师, 西安交通大学第一附属医院血管外科; 周国血管科护士长, 中国微纳环亚大血管联盟护理专业委员会副主任委员



15:00-15:40 题目: 抗疫征程, 砥砺前行  
赵杰刚 教授(笹川8期)  
河南科技大学第一附属医院 护理教育



15:40-16:20 题目: 西安疫情期间 一线抗疫纪实  
朱舜明, 医学博士, 副主任医师(笹川39期)  
西京医院 心内科



16:20-17:00 题目: 外防输入 内防反弹  
成琳 副主任医师(笹川38期)  
西安交通大学第二附属医院 耳鼻喉科



17:00-17:20 题目: 日本的新冠疫情防控对策  
刘雨桐(笹川41期) 西安交通大学外国语学院日语口译专业硕士 吉林大学医学口译专业博士在读。



17:20-17:40 题目: 疫情下的校园生活——西安交大师生抗疫点滴  
牛震雨 西安交通大学外国语学院在读硕士研究生  
2022年度中日“樱花计划”项目学员



17:40-17:50 闭幕总结  
李国栋 副教授(笹川16期) 西安交通大学外国语学院

17:50-18:00 自由交流(合影)

18:00-19:30 晚宴



## 4 支部学術会議

### 4.6 日本支部学術交流会

開催日	2022年3月27日(日)
形式	オンライン形式
実施責任者	趙松吉 福島県立医科大学ふくしま国際医療科学センター 先端臨床研究センター教授(第19期生)
参加者	33名 本部及日本在住の笹川同学会会員 他
テーマ	健康
プログラム	<p>講演①安達 勇 日中医学協会副会長・理事、静岡県立静岡がんセンター参与 「健康長寿を目指すには、その対策」</p> <p>講演②張春東 東京大学大学院博士課程(第40期生&lt;学位取得コース&gt;) 「DNA メチル化による食道胃接合部がんの組織起源の予測」</p> <p>講演③呂玉泉 大阪大学大学院医学系研究科社会医学講座環境医学助教 (第15期生) 「飲酒、遺伝と健康」</p> <p>講演④姚 建 山梨大学大学院医学工学総合研究部分子情報伝達学准教授 (第9期生) 「新たな抗酸化剤の開発と治療への応用」</p>
 <p>オンライン開催</p>	



演者：安達勇先生



演者：張春東先生

演者：呂玉泉先生

演者：姚建先生

報告：学術交流会では、健康・長寿に係るテーマで、笹川生による講演と安達勇副会長による特別講演が行われた。笹川生による講演では、健康対策についての最新研究が報告され、活発な質疑応答が行われた。また特別講演では、講演の後、演者、座長、参加者で健康長寿の秘訣と対策についてのディスカッションが行われた。健康長寿保持者である演者と座長からのアドバイスに大いに盛り上がり、大変充実した交流会となった。

## 5 日中共同フォーラム

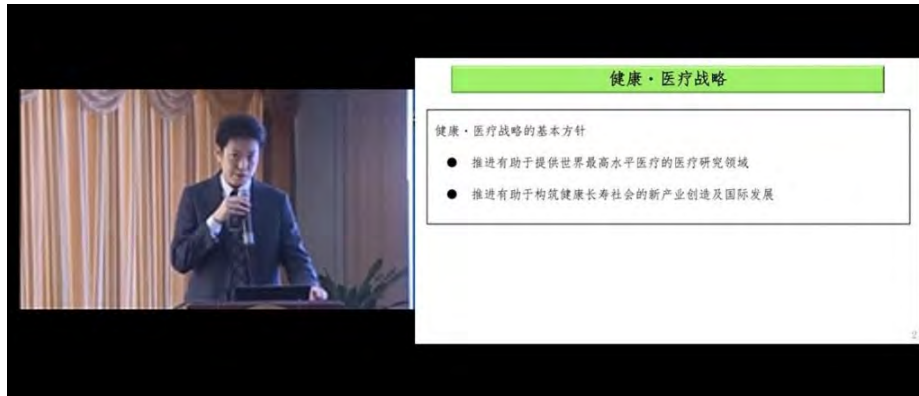
## 5 日中共同フォーラム

### 5.1「大健康」フォーラム

開催日	2021年10月23日(土)
場所	長富宮飯店(北京市);日本会場/日中医学協会事務局(東京都)
実施責任者	張 亨 北京頤康国際智能科技有限公司総経理(第10期生) 胡秀英 四川大学華西医院華西看護イノベーション研究センター長(第18期生) 李 莉 青島和睦家医院国際遠隔医療診療部総監(第30期生) 李忠金 笹川同学会秘書長(第12期生)
参加者	40名 笹川同学会会員等
日本専門家	講演者 伊藤秀俊 在中国日本国大使館一等書記官 竹田敬治 テルモ株式会社執行役員人事部長 安達 勇 日中医学協会副会長・理事静岡県立静岡がんセンター参与 新垣 実 新垣整形外科院長 福沢嘉孝 愛知医科大学先制・統合医療包括センター部長
テーマ	大健康
プログラム	講演① 伊藤秀俊 在中国日本国大使館一等書記官 「日本の健康医療戦略」 講演② 張 亨 北京頤康国際智能科技有限公司総経理(第10期生) 「ビッグデータの安全とデジタルヘルスのソリューション」 講演③ 竹田敬治 テルモ株式会社執行役員人事部長 「日本の健康経営とテルモ株式会社における実践」 講演④ 李南方 新疆ウイグル自治区人民医院高血压センター長、 新疆高血压研究所所長(第7期生・第40期生<共同研究コース>) 「未発展地区における高血圧の予防・コントロールシステムの構築と効果」 講演⑤ 安達 勇 日中医学協会副会長・理事静岡県立静岡がんセンター参与 「健康長寿を生き貫く、その方策」 講演⑥ 李 莉 青島和睦家医院国際遠隔医療診療部総監(第30期生) 新垣 実 新垣整形外科院長 福沢嘉孝 愛知医科大学先制・統合医療包括センター部長 「日中国際遠隔診療協カプロジェクトについて」



## ■ 講演(プログラム順)



1) 「日本の健康医療戦略」  
伊藤秀俊 在中国日本国大使館一等書記官



2) 「ビッグデータの安全とデジタルヘルスのソリューション」  
張 亨 北京頤康國際智能科技有限公司總經理(第10期笹川生)



3) 「日本の健康経営とテルモ株式会社における実践」  
竹田敬治 テルモ株式会社執行役員人事部長 【オンラインで参加】



4) 「未発展地区における高血圧の予防・コントロールシステムの構築と効果」  
李 南方 新疆ウイグル自治区人民医院 副院長(第7期笹川生) 【オンラインで参加】



5) 「健康長寿を生き貫く、その方策」  
安達 勇 日中医学協会副会長、静岡県立静岡がんセンター参与 【オンラインで参加】



6) 「日中国際遠隔診療協力プロジェクトについて」

李 莉 青島和睦家医院国際遠隔医療診療部総監(第 30 期笹川生)

新垣 実 新垣整形外科院長 【オンラインで参加】

福沢嘉孝 愛知医科大学先制・統合医療包括センター部長 【オンラインで参加】



会場様子



集合写真

報告:今回は、「大健康」をテーマに開催した。大健康(Comprehensive Health)とは、WHO 憲章の健康の定義に基づく中国の「国民の健康寿命が延伸する社会」を目指すための概念とその取り組みを指す。

フォーラムでは、韓晶岩 笹川同学会常務理事(北京大学医学部中西医结合学系教授,第9期生)、安達 勇 日中医学協会副会長の開会挨拶の後、日中両国の専門家8名による講演が行われた。

中国側からは、張 亨 北京頤康国際智能科技有限公司総経理(第10期笹川生)が「ビッグデータの安全とデジタルヘルスのソリューション」について、李南方 新疆ウイグル自治区人民医院副院長(第7期笹川生)が「未発展地区における高血圧の予防・コントロールシステムの構築と効果」について、それぞれその取り組みの内容と成果について紹介された。

日本側からは、伊藤秀俊 在中国日本国大使館一等書記官が「日本の健康医療戦略」と題して日本国政府の健康医療に関する取り組みについて解説し、竹田敬治 テルモ株式会社執行役員人事部長が「日本の健康経営」と題して、従業員の健康保持・増進の取り組みが将来的に収益性を高める投資であるという考えの下、健康管理を経営的な視点から戦略的に実践することを、同社内での実践例をもとに紹介された。また、安達 勇 日中医学協会副会長/静岡県立静岡がんセンター参加が「健康長寿を生き貫く、その方策」と題して、①健康長寿の視点、②遺伝素因と環境的素因、③食と腸内細菌の重要性、④環境改善でどこまで遺伝素因を克服できるか、について講演した。

また、李 莉 青島和睦家医院国際遠隔医療診療部総監(第30期笹川生)、新垣 実 新垣整形外科院長、福沢嘉孝 愛知医科大学先制・統合医療包括センター教授が、共同で行っている「日中国際遠隔診療協力プロジェクト」における各自の取り組みについて、それぞれ紹介された。



笹川医学奖学金同学会办公室

地址：北京市海淀区西直门北大街联想路101号西峰公寓C座0248  
联系电话：010-62256266 15901208067  
邮箱：sc1000@vip.163.com  
网址：http://www.sskw.net



# 2021年中日笹川医学奖学金同学会 “大健康论坛”

主办单位：笹川医学奖学金同学会、日中医学协会  
支持单位：国家卫生健康委员会、日本财团  
2021年10月23日

地点：北京长富宫饭店  
参加人员：中日笹川医学奖学金同学会会员  
日期：2021年10月23日  
时间：12:30 ~ 17:50  
晚宴：18:00 ~ 19:30

## 会议日程安排

12:30—13:00 嘉宾签到

13:00—13:05 笹川医学奖学金同学会 韩晶岩 常务理事（笹川9期生）致辞

13:05—13:15 日中医学协会代表 安达勇 副会长 致辞

13:15—13:35 演讲一

伊藤秀俊（一等书记官）  
日本驻华使馆  
题目：《日本的健康医疗战略》



13:35—14:05 演讲二

张亨 教授（笹川10期生）  
北京颐康医疗科技有限公司 总经理  
题目：《大数据安全与数字健康解决方案》



14:05—14:55 演讲三

竹田敬治 人事部长  
泰尔茂公司 执行董事  
题目：《日本的健康经营与泰尔茂公司的实践》



14:55—15:25 演讲四

李南方 教授（笹川7期生）  
新疆维吾尔自治区人民医院 副院长  
题目：《欠发达地区高血压防控体系的构建与成效》



15:25—15:40 茶歇

15:40—16:10 演讲五

安达勇 教授  
静冈国立癌中心 参事  
题目：《获得健康长寿及其举措》



16:10—17:10 演讲六

李莉 教授（笹川30期生）  
青岛和睦家医院 国际远程会诊平台 总监



新垣真 教授  
新垣整形外科 院长



福沢嘉孝 教授  
日本爱知医科大学 早期先制・統合医疗中心,  
教授兼部长, 医学和医学教育部, 教授



题目：《中日国际远程会诊合作项目》

17:10—17:30 讨论

17:30—17:50 合影

18:00—19:30 晚宴

## 6 広報活動

笹川医学奖学金同学会

2021 年特刊

# 目录

## 1 抗疫报道

- 01 —— 疫情中的西安 第 16 期 笹川生 李国栋  
02 —— 盼“春暖花开” 第 29 期 笹川生 何非方  
03 —— 新冠肺炎奥密克戎异株疫情突袭津城 第 30 期 笹川生 孟召伟  
05 —— 显我白衣本色 护我长安常安 第 39 期 笹川生 朱舜明

## 2 地区分会

- 06 —— 2021 年度西南地区分会 第 8 期 笹川生 刘爱民  
08 —— 2021 年度华南地区分会 第 1 期 笹川生 王甲东  
09 —— 2021 年度华东地区分会 第 28 期 笹川生 殷 猛  
11 —— 2021 年度华北及华中地区分会 第 30 期 笹川生 孟召伟  
13 —— 2021 年度西北地区分会 第 16 期 笹川生 李国栋

## 3 健康大论坛

- 14 —— 2021 年度健康大论坛

## 4 基层培训与地方支援

- 16 —— 基层医师呼吸系统疾病培训  
16 —— 基层医师第二期睡眠呼吸疾病培训  
17 —— 基层医师妇科腔镜培训  
18 —— 基层医师结直肠癌培训  
19 —— 下消化道内镜基层医生规范化培训  
20 —— 四川省雅安地域医疗支援活动  
21 —— 新疆玛纳斯地域医疗支援活动

## 5 语言培训

- 22 —— 第 44 期攻读学位型研究员语言培训结业典礼

## 6 报告会及结业典礼

- 23 —— 第 40 期·41 期<攻读学位型>研究员报告会及结业典礼

## 7 我与笹川

- 27 —— 留学之忆 第 40 期 攻读博士学位 唐春花  
29 —— 我与笹川 第 41 期 攻读博士学位 崔丽萌  
31 —— 笹川医学奖学金与我 第 41 期 攻读博士学位 孟 雪  
32 —— 笹川医学奖学金与我 第 41 期 攻读博士学位 常立甲  
34 —— 我的线上学习生活小记 第 44 期 攻读博士学位 周 英

## 8 冬奥会中的笹川生

- 35 —— 守护的承诺——冬奥值班有感 第 41 期 共同研究 李博

## 疫情中的西安

第16期 笹川生 李国栋



2022年虎年春节令人难忘。

牛年岁末，西安遭遇新冠疫情。2021年12月20日周一，上午还在教室给大四学生上课，下午坐校车回家。没想到从第二天开始，就再也没有离开过居住的小区。

除了做核酸下楼一会儿，其它时间居家办公、网

络授课。每天关注政府及学校发布的疫情信息，清点盘算着家里仅存的吃食。

陕西人爱吃面。面食做起来简单，实惠。吃米饭，总得炒几个菜，觉得浪费。特别是“居家”这段日子，把吃面发挥到了极致。煮面，捞面，给面碗里切点葱末，放点辣椒面，用热油一浇，刺啦一声，香喷喷的油泼面。一连数日不觉烦。

西安有许多高校，校园疫情防控任务重，责任大，压力可想而知。同学们自觉自律，勇敢面对困难，师生同心共克时艰。终于在春节前夕，学生有序离校返乡，与家人团聚。

2022年1月23日，是个值得纪念的日子，终于可以走出小区了。兴冲冲来到大街上，下雪了，雪，越下越大。瑞雪兆丰年。

春节前夕，全面解封，古都西安又焕发活力，大街上，商店里，重现往日的熙熙攘攘。





# 盼“春暖花开”

第29期 笹川生 何非方



2022年除夕，完成农历年最后一台手术，回到手术室更衣间休憩时，我在朋友圈发了一条微信“除夕查完房，也顺利完成了应该是今年的最后一台手术了，我们和病房里来自“北京，山东临沂，江苏宿迁，山东青岛，浙江丽水、温州和嘉兴”等8位低颅压疾病患者一起祈福新春，愿平安健康”。疼痛科病房常年住着来自全国30多个省、市、自治区的患者，我已记不起有多少个春节，病房里总有不少来自浙江省或杭州市外的由于病情急迫要在医院接受检查、手术或术后康复的低颅压脊髓脑脊液漏患者，无法赶在春节前出院与家人团聚。疫情这几年，就医患者无论是离开居住地，还是出院返回居住地，都面临严谨的安全防护措施。住院期间，无论患者还是家属都要经历比疫情前更多的艰辛与不安。想家的急迫心情，都需要我们医护人员给与他们心理上更多与更细腻的安抚与鼓励，疫情之下的这一年，医院一方面要派出医护团队去一线参与抗疫工作，另一方面也要肩负院内繁重的日常医疗工作。一年来，特别感恩我们患者对于我们严密的疫情防控的理解与配合，也非常感恩我们敬业的兄弟科室同道在工作上的紧密合作与帮助。

2021年是不平凡的一年，1月份我们与“美国华人医师协会”，“斯坦福大学疼痛中心”联合成立了浙江大学医学院附属邵逸夫医院“中美疼痛中心”；对于中国脊髓脑脊液漏低颅压规范诊治的推动，我们迎来了一个非常重要的里程碑，我们有幸聘请了中华医学会疼痛学分会主任委员，著名疼痛科专家、南昌大学附属第一医院疼痛科主任张达颖教授为“中国脊

髓脑脊液漏修复联盟”顾问，这对于在中国全方位推进脊髓脑脊液漏疾病医学科普和疾病规范诊治有着极其深远的意义。

这一年，我们微笑明天基金会“中国脊髓脑脊液漏患者救助基金项目”帮助了四川，山东，云南，贵州等多地因病致困的脊髓脑脊液漏患者，迄今为止，该项目已经帮助了15个省份的因为自发性脊髓脑脊液漏而使家庭陷入困境的患者。

2021年的3月，我也再次受邀为日本参议院议员以及医疗相关官员等介绍中国脊髓脑脊液漏低颅压治疗经验和发展现状。这次演讲本该前往日本东京的国会议事堂参议院，由于疫情，只能在线上参会，这次的中国经验分享介绍对于推动日本卫生部门关于脊髓脑脊液漏患者的救治和保险制度的完善及两国共同推动该病的救治有着非常重要的意义。

除夕夜，收到了许多新年祝福，最为感动的是来自苏州的早期患者制作的新年祝福视频，里面有编辑好的20多位曾经的患者的祝福画面，看完，我感慨万千，我在朋友圈发了除夕夜的第二条微信“收到你们从祖国四面八方发来的鼓励，一张张熟悉的面孔，一段段温馨的祝福，我们心存感激，将一如既往地一起努力，继续守护健康，也恭祝你们永远平安健康，虎年大吉，无痛无忧”。

期盼疫情早日过去，我们都能回归正常的工作生活轨迹，平安健康地生活，愿“春暖花开”。



# 新冠肺炎奥密克戎变异株疫情突袭津城

第30期 笹川生 孟召伟

2022年1月8日，新冠肺炎奥密克戎变异株疫情突袭津城。天津医科大学总医院立刻进入紧急状态，我和泌尿外科刘晓强主任（笹川28期）和向医院请缨加入一线抗疫。2022年1月11日在结束了正常工作之后，我们被安排到天津医科大学总医院第二队支援津南区疫区的核酸大筛查工作。经过连夜准备，2022年1月12日早晨7点与队友集合出发，加入到津南区核酸筛查工作中，直到1月29日（腊月二十七）下午，津南区基本全域解封的时刻，才完成任务回到市里，自行隔离。

在支援核酸筛查的日子里，我们和所属的组员，

曾在确诊病例居住的24层住宅楼中，徒步爬楼进行入户核酸筛查。有时，接受核酸检测的社区居民过多，核酸检测工作会很早开始，一直持续到很晚结束。最早的一次是清晨5点多开始，最晚的一次是凌晨4点左右结束。

在这艰苦的18天里，我们和所有支援的队友参与筛查最多次的是津南区的金才园小区。该小区常驻人员9000多人，人员密集、楼宇多，多次对有确诊病例的楼宇进行“扫楼”筛查核酸工作，“扫楼”这个由疫情而衍生出的词藻，意义为：徒步一层又一层、一户挨一户，进行一人采一管儿核酸的工作。所有参







与者分工明确，叫门、扫码登记、核对采集、开管、递拭子、封管、酒精喷杀、手消毒，过程中还不断与居民进行简短沟通交流，整个流程顺畅，循环往复，衔接紧密。有的老人行动不便、卧床不起，大家则进屋到老人床前采样；有的婴幼儿害怕不配合，大家则安抚小朋友轻柔采样。在采集过程中，充分的个人防

护一刻也不能放松，但防护服很笨重、造成行走不方便，严密的防护服使一趟“扫楼”下来大家都汗流浃背。

我们有时在楼宇门口进行采样，采样点位条件很艰苦，基本就是简单的两张桌子，经常没有椅子，所以采集过程中，为了采样操作的准确，大多也是站着进行的。早晨5点多的时候开始采集、没有光线，大家有时就用头灯或志愿者用手机照亮，腊月里天寒地冻，大家的双手会感到僵冷，采样后酒精消毒使手部温度降得更低，整个采样工作下来，双手已经冻得青紫。

所有的上述这些都是支援核酸采样的医护人员的常规工作的几个侧影，抗击疫情参与者时间、精力、体力上的付出，大家都看在眼里。居民朋友都说：“你们采样做的真标准”、“你们辛苦了”、“给你们拿热水袋暖暖手”、“非常感谢你们的支援”！

正因为广大医务工作者以及所有支援加入者的积极参与、默默奉献、为抗击疫情做出的贡献，才使天津市津南区奥密克戎疫情战役获得最终胜利。



# 显我白衣本色 护我长安常安

## ——西安抗疫

第39期 笹川生 朱舜明

在此次西安疫情爆发期间，我作为陕西省人民医院支援西安市胸科医院抗击新冠肺炎疫情医疗队的医疗组长，参与了一线抗疫。现将进入病区开展工作的一些情况汇报如下：

做好医疗本职工作：

初次进入隔离病区工作，面对的境外输入病例和新型奥密克戎病毒，难免存在一定的心理恐惧。在酒店进行紧急培训期间，不断为自己加油打气。只要遵循科学原则，做到严密的防护，职业暴露的风险将会大大减少。我以前虽然从事以介入手术为主的临床工作，但是无菌意识不强，心里没有底气。在培训期间，在感控专员及各位感控护士的帮助下，积极对照自己的缺点，找短板，刻苦练习穿脱防护服、补习院感相关知识，充实自己抗击新冠病毒的技能、增强了抗击新冠病毒的信心。

发挥党员的模范带头作用：

国家、省、市指挥部将奥密克戎病区的管理和诊治提高到前所未有的高度。作为一名有18年党龄的共产党员、一名从事临床工作多年的医生，我向党支部提交申请，到最艰苦的前线工作，申请管理奥密克戎病人。和同事们一起，圆满完成了奥密克

戎病人的诊治。

发挥外语较好的优势，管理外籍病人：

境外输入病区有外籍入境的病人。这些病人在异国他乡、举目无亲、沟通不畅，都存在不同程度的心理问题。我发挥自己英语流利的优势，在完善日常诊疗工作的同时，对外籍病人进行积极的心理干预，让他们坚定信念，树立起抗击病魔的信心，积极配合治疗和康复。在我和组员的共同努力下，外籍病人均平稳出院。

负责处理焦虑病人：

除了外籍病人以外，我们病区还有因为多次复阳而反复住院的病人，这些病人存在更大的心理障碍。特别是一名从海外回国的女性，焦虑、恐惧、愤怒溢于言表，一度产生了自我伤害的倾向和在外网发表不当言论的苗头。在我和小组其他成员的努力和开导下，终于能配合治疗，最终平稳出院。

参与医疗队的保健和身心健康：

医疗队支援期间，好几名队员出现了不同程度的不适，我多次参与队员的会诊。非本专业疾病，积极联系会诊。此外，积极动员队员进行体育锻炼，建立了活动群，积极打卡，相互督促。





## 2021年度西南地区分会

## ——新冠疫情防控及疫苗开发

第8期 笹川生 刘爱民



2021年（度）笹川医学奖学金西南区学术交流会议于2022年1月23日以线下和线上结合的方式举办，会议的主题为“新冠疫情防控及疫苗开发”。主会场设在四川成都岷山饭店黄龙厅，当日主会场参会的有笹川医学奖学金成都地区24人，会议特别邀第8期魏于全院士进行了线上特别讲演交流，云南地区的同学在第8期李松校长的主持下也进行了集中连线交流，重庆地区由第34期熊宇老师主持下集中连线，贵州地区由第36期陈觅老师负责集中连线。

参加会议的还有北京李忠金秘书长和吴久利老师，以及未到现场的部分西南同学（成都、重庆及贵阳的同学），当日除国内同学外，还特别邀请了日中医学协会的本田局长、久保洋介和冈田光子次长进行了线上参会交流。

## 9:30 会议开始

首先由主持人刘爱民老师，介绍参会来宾及同学，当日除国内同学外，还特别邀请了日中医学协会的本田局长、久保洋介参与和冈田光子次长进行了线上参会

交流。

日中医学协会的久保洋介首先致辞，对本次会议的召开表示祝贺。

久保洋介：全世界研究耐药的公司只有8家，现存的医药公司不能满足人类需求，新抗生素的危机威胁人类的存亡，日本财团等联合建立传染病研究基地，以新冠病毒作为契机将传染病作为全世界研究要点…

紧接着会议正式开始，笹川医学奖学金第8期生，四川大学教授魏于全院士在工作行进路程中，使用5G手机连线在车上进行了线上演讲交流。介绍了魏院士团队最新的新冠病毒疫苗开发现状，魏于全院士：第二代疫苗的研发不断发展，如MF549，rbd，目前市场做重组蛋白较多。本实验室用昆虫细胞做蛋白研制疫苗，世界卫生组织已批准此疫苗，且已在中国开展了一期临床实验，入组1000多人，疫苗产生抗体水平较高；三期临床已在世界各地开展，总入组4万余人；MR1表…；目前还研究出黏膜喷雾疫苗，综合抗体可以持续一年以上，此外还研制了新冠口服药物；目前已建立了2座工厂，分别在成都（眉山）和广州…

接着特别讲演2由昆明医科大学教授李松校长（笹川医学奖学金第8期生）就“云南新冠疫情防控对策”进行了交流。

李松老师：首先介绍新冠病毒数据分布情况，新冠病毒不断变异；介绍云南地理特点，云南地处东南亚窗口，边界线4000多千米，与缅甸、老挝等东南亚国家毗邻，给防控境外疫情带来了严峻挑战，疫情边境传播范围广，基于以上因素云南疫情具有点多线多发等特点，但云南疫情防控迅速，输入病例排全





国第三，病源来源最多为德宏州方向…

11:00 休憩后，笹川医学奖学金第 2 期生。

栾荣生四川大学华西公共卫生学院教授就“新冠肺炎防控与思考”进行了交流

栾荣生教授主要交流内容包括：防控策略框架，流行过程指个体间群体内传播；传染源：人和动物；传播因素，间接传播、直接传播；患者传播重点，传染性较强，无症状感染者，占 80%-90% 以上，传播范围更广；受感染的动物(起始或源头)：目前考虑“马来”穿山甲；传播途径：主要飞沫传播，传播通常限于 1 米以内；次要传播途径：接触传播；气溶胶，需要佩戴防护型口罩以及通风换气或者空气净化消毒；粪口传播；易感人群：群体免疫，自然感染或者疫苗；自然因素与社会因素：人群流动、人群聚集、人群文化；新冠肺炎人工免疫预防…

在交流提问环节，刘爱民老师请日方久保老师介绍了日本最新的奥密克戎病毒株的流行情况及日本的防疫对策。

最后，笹川医学奖学金第 11 期生唐小海四川赢瑞医药科技有限公司主任医师博士就：“纳米碳铁混悬注射液临床前研究”进行了讲演发言。

现场的同学就纳米碳铁混悬注射液临床前研究的有关问题进行了深入的探讨。

唐小海教授：纳米碳铁作用机理：癌细胞中铁易

进难出，使用纳米碳作为载体，附载铁进入癌细胞；问题一：是否有副作用？：答：铁会进入血液，可能出现铁过载，铁中毒，但是因为剂量小，可通过手段中和；问题二：是否进行了临床实验？还未进行临床研究，预计 4-5 年完成临床实验；问题三：药物代谢问题如何解决？考虑单次使用的计量，使用两次，在手术前的一个月以内；问题四：如何注射？答：可采用介入，腹腔镜。

会议在热烈的气氛中连线了昆明、重庆和贵阳等地同学及东京日中医学协会，由李忠金秘书长进行了总结。

李忠金秘书长：本次会议内容丰富，线下线上同学参加积极，中日双方互动良好，会议取得了良好的效果，再次感谢大家。期待 2022 年的活动圆满举办。



# 2021年度华南地区分会

## ——疼痛对策研讨会

第1期 笹川生 王甲东

2021年度笹川医学奖学金同学会华南地区分会疼痛对策研讨会于2022年2月20日在广州市华夏大酒店顺利举办。基于疫情特殊时期，本次华南地区分会采取线上线下会议相结合的形式。广州会场以线下现场活动为主，也有部分同学线上参加，海南也是线下分会场，深圳由于疫情突起，全员线上参会。

本次华南地区分会广州分会现场由笹川生1期生王甲东老师、5期生丘勇超老师主持。会议伊始，日中医学协会久保洋介先生及日本驻华使馆一等书记官伊藤秀俊先生致辞。两位对本次会议的举办表示期待与祝贺。深圳分会场李宝兴老师及海南分会场吴忠老师致辞祝贺同学会顺利开办。

第一位演讲者是来自日本顺天堂大学医学部附属顺天堂医院的井关雅子教授。井关教授分享的题目为《日本疼痛医疗的现状与举措》。第二位演讲者是来自中日友好医院疼痛科的樊碧发教授。樊教授分享的题目为《中国疼痛医学的发展》。第三位演讲者是来自新加坡衡心物理治疗中心的颜涌教授。颜教授分享的题目为《从运动力学角度分析筋骨疼痛的原因》。第四位演讲者是来自浙江大学附属邵逸夫医院疼痛科/颅内压诊治中心的何非方教授，何教授分享的题目为《脊髓脑脊液漏/低颅压头痛的治疗策略》。第五位演讲者是来自广东药科大学附属第一医院疼痛科主任何雁冰教授。何雁冰教授分享的题目为《一个基层疼痛科医生的几点感悟》。



五位演讲者从不同的角度分析探讨疼痛科的病患特征特点以及治疗对策。当中也包含疼痛科在不同社会背景下的发展现状。五位讲者身为同行，在一些观点探讨上更加惺惺相惜。广州分会会场线下的同学对五位讲者提出的观点和想法进行了探讨和记录。高眉扬老师提出希望能得到讲者们的联系方式以便进行一些学术上的探讨和交流。

最后笹川医学奖学金同学会李忠金秘书长作出闭会致辞。李忠金秘书长总结归纳了本次会议各位讲者的主要观点，也感谢了来自各方的支持与关注让华南地区分会得以顺利在线上线下举办。同时今年是中日邦交的重要一年，也是笹川同学会的重要的35周年庆，李忠金老师祝愿疫情能得到有效控制，也期待2022年11月与各位同学相聚在北京人民大会堂举办庆祝大会。





# 2021年度华东地区分会

## ——疼痛对策研讨会

第28期 笹川生 殷猛



2021年度华东地区分会，由于疫情缘故，从去年10月一直延期到2022年的2月，终于以线下和线上相结合的方式召开，上海地区作为主会场，现场参会的同学们在会议室内，和来自日本、北京、江苏、浙江的老师 and 同学们在线上济济一堂，共同对“疼痛”

这一临床非常常见，但又给患者造成较大困扰之症状的诊治开展了热烈的讨论。

会议由我（笹川医学奖学金同学会常务理事）主持，日中医学协会冈田光子女士、笹川医学奖学金同学会李忠金秘书长和同学会华东地区分会会长孙伟教授相继进行了开场致辞。李秘书长宣布了今年11月在北京人民大会堂召开笹川奖学金项目35周年纪念活动的好消息，令人振奋、心生向往。

2期笹川生、瑞金医院于布为教授首先作了题目为《疼痛的生理病理以及疼痛的诊断与治疗》的报告。于教授作为全国顶尖的麻醉学专家，对疼痛有着非常深入的理解，他的报告不仅涉及医学，还从社会、心理方面都做了非常深入浅出的解说；对于祖国医学——中医，他在报告中也作出了非常高的评价，尽管于教授本人是西医，但是对中医的理论秉持着非常开明的态度，认为在疼痛的治疗中，祖国医学也发





挥着非常重要的作用。报告甚至还涉及到了当年抗击SARS和目前新冠病毒治疗的相关经验，真可谓干货满满，同学们大开眼界，收益匪浅。

来自江苏省中医院的傅海扬教授，在江苏分会场的线上作了题为《针灸镇痛和止痛》的报告。通过对大量病例的诊疗，傅教授积累了极为丰富的临床经验，对于针灸的镇痛和止痛在临床上的应用娓娓道来，分享的一个个生动的案例都展现出了中医针灸的神奇疗效，也为临床中镇痛提供了更多的选择。从她的报告中，大家体会到了中医工作者为祖国医学在新时代中能更好的造福患者、发扬光大而付出的拳拳努力。

笹川29期生、浙江大学附属邵逸夫医院的何非方教授分享了题为《脊髓脑脊液漏/低颅压头痛的治疗策略》。脑脊液漏是一种容易被忽视的疾病，所导致的低颅压头痛往往造成患者严重的困扰，何教授对于脑脊液漏的处理有着丰富的临床经验和独到的见解，全国各地来求助的患者源源不断；何教授的分享让大家对于脑脊液漏及相关的临床影响和诊治有了更深入的了解，对于近年来的治疗手段进展也有了更多的学习收获。

最后一位讲者是笹川34期生、上海市第一人民医院胡剑麟副教授，他的题目是《前列腺炎和盆腔疼痛综合症——如何拯救“男”言之隐》。他从前列腺的生理功能开始，介绍了前列腺炎的定义和分型，以及慢性前列腺炎/慢性盆腔疼痛综合症的定义等，提及前列腺炎在15-50岁男性中发生率近10%，因此是不可忽视的一个疾病。这类综合症的机制尚不明确，与生理、心理和精神因素都可能有关；也可能不仅仅是前列腺本身的原因，还可能与筋膜相关。治疗需要多模式综合治疗，包括药物治疗和改变久坐等生活方式等，目标在于缓解疼痛，减轻对生活的困扰。胡教授的报告引起大家对这种常见男性疾病的重视，并充分意识到专科的细分化对于医学的巨大促进作用。

本次同学会会议在热烈的讨论气氛中顺利结束，大家纷纷表示，在新冠疫情尚需防控的大背景下，同学们能组织起来参加这样的盛会实在是非常难得，而且利用线上会议的形式，更好的克服了疫情的影响，让更多地区的同学们能加入进来。长风破浪会有时，相信总有疫散花开之时，希望笹川同学会的大家庭能在11月胜利会师在北京！



# 2021年度华北及华中地区分会

## ——抗击新冠疫情研讨会

第30期 笹川生 孟召伟

2021年度笹川医学奖学金同学会天津、河北、山东、湖南、湖北地区分会，于2022年3月6日上午举行。Omicron 新冠病毒在中国的首次聚集性出现，是于2022年1月8日，在天津市津南区发生，因此这次会议的主题确定为：抗击新冠疫情研讨会。但也因疫情影响，原本在天津的现场主会场，在3月4日临时更改为湖南主会场，其它地区均网络参会。

3月6日上午9点，首先，由日中医学协会事务局长冈田光子女士做大会致辞。

第一个发言的是复星医药执行总裁回爱民教授（笹川6期），回爱民教授发言题目是“异军突起的mRNA 新冠疫苗 BNT162b2- 全球合作与中国的贡献”，回教授介绍了 mRNA 疫苗的发展历程、其优越的特点、对 Omicron 新冠病毒的防疫价值，更重要的是介绍了复星医药如何和 BioNTech 公司能充分合作，第一时间把 mRNA 新冠疫苗 BNT162b2 抢先研发出来，推广到临床应用，并在国际顶级杂志发表文章。

第二个发言的是湖南旺旺医院外科李永国教授



（笹川1期），李教授的发言题目是“新冠疫情带来的思考与启示”，李教授介绍了中国在整个发展历史中面临过很多严重的瘟疫，但勤劳勇敢的中国人民如何战胜各种疫情，提出疫情拷问的是社会和国家、可以评判国家的治理优势，疫情提醒人类应该有敬畏之心，医学的人文、科技、社会属性在疫情的时候会更为突显，人们应该学会拥抱变化、迎接挑战。

第三个发言的是中日联谊医院副院长顾锐教授（笹川28期），顾教授的发言题目是“抗疫一道同云雨，吉津何曾是两乡”，顾教授介绍了 Omicron 新冠病







毒在天津爆发后，顾教授带领迅速集结的 540 位吉林医护技人员，作为核酸移动检测队伍，驰援天津的核酸大筛，顾教授和他带领的团队于 2022 年 1 月 10 日连夜赶到天津市河东区，在工作的 12 天里，顾教授带领的团队制定了管理制度、检测三人工作协调小组、点对点质控等方案，为天津成功战胜 Omicron 作出了重要贡献。

第四个发言的是天津医科大学总医院泌尿外科刘骁强教授（笹川 28 期），刘教授的发言题目是“天总援津南，决胜除夕前”，刘教授介绍了 2022 年 1 月 8 日 Omicron 新冠病毒在天津爆发后，我和刘教授积极投身到 Omicron 新冠病毒爆发的核心区域（天津市津南区）的核酸大筛工作中，从 2022 年 1 月 11 日至 2022 年 1 月 29 日，我们一直在在一线津南区的

八里台地区和咸水沽地区（金才园、丰达园等小区），做入户的核酸采样大筛，为天津战胜 Omicron 新冠病毒作出了重要贡献。

第五个发言的是山东省疾控中心设备物资部（生物办）主任李岩教授（笹川 33 期），李教授的发言题目是“新冠疫情常态化防控背景下的新冠疫苗接种策略分析”，李教授介绍了山东省疾控中心的八项机构职能，介绍了疫苗研发涉及的领域和路线，疫苗的分类和特点，最重要的是介绍疫苗的接种策略，加强针对保护突破性感染的意义。

最后，由同学会的李忠金秘书长做了精彩的总结发言，并介绍了今后笹川医学奖学金和同学会的新发展规划。会议在祥和、积极、充满学术气氛中落下帷幕。



# 2021年度西北地区分会

## 第16期 笹川生 李国栋

3月20日下午，2021年度中日笹川医学奖学金西北地区学术研讨会以线上、线下的方式举行，日中医学协会本田伸吾事务局长、次长冈田光子女士，笹川进修生同学会李忠金秘书长等出席会议并致辞。研讨会由西安交大外国语学院硕士生导师、笹川医学奖学金项目第16期研究员李国栋主持，来自陕西、山西、甘肃、青海、宁夏、新疆、河南的笹川医学奖学金项目学员，以及西安交大外国语学院日语MTI2021级研究生参加了活动。



此次研讨会的主题是“疫情防控与我们的生活”，来自西安交通大学第一附属医院周红艳、第二附属医院成颖，陕西省人民医院朱舜明，河南科技大学临床医学院赵杰刚，以及日本杏林大学刘雨桐，西安交通大学外国语学院牛晨雨等先后做专题演讲。

此次会议设了陕西、山西、新疆三个会场，笹川生同学会常务理事张军、李燕萍、李南方分别代表各

会场致辞，对研讨会的顺利举办表示祝贺，希望今后能继续举办地区学术研讨会，进一步增进笹川生之间的交流。

通过交流，大家对新冠病毒有了进一步的认识，特别是在疫情防控中笹川生冲锋在前，忘我工作的精神给大家留下了极其深刻的印象。我们一定要做到科学防控，精准防控，在疫情防控中发挥积极作用。





## 2021年度健康大论坛

笹川同学会与日中医学协会共同主办了“2021年笹川医学奖学金同学会高峰论坛”于10月23日（周六），在北京长富宫饭店隆重召开。共有50多名笹川同学会会员线下和线上参加了本次会议。

本次论坛由同学会和日中医学协会共同策划实施，以中国医疗卫生政策的重点课题为主题，通过中日两国专家演讲并交换意见，期待能够解决中国的相关问题，迄今为止，已经召开6届。

本次以“大健康”为主题。所谓大健康（Comprehensive Health），是指基于WHO健康的定义，为了“延长国民健康寿命社会”而提出的概念及举措。

本次高峰论坛，由笹川同学会常务理事韩晶岩先生主持（北京大学医学部中西医结合系教授，第9期研究员）、日中医学协会副会长安达勇先生致开幕词后，中日两国共8位专家进行演讲。

首先由日本国驻华大使馆一等书记官伊藤秀俊先生以“日本的健康医疗战略”为题，就日本政府的健康医疗相关举措进行演讲。

然后由北京颐康国际智能科技有限公司总经理张

亨先生（第10期研究员）以“大数据安全与数字健康解决方案”为题进行演讲，之后，由泰尔茂公司执行董事人事部部长竹田敬治先生就“日本的健康经营与泰尔茂公司的实践”为题，以维护及增进员工的健康就是将来提高收益的投资理念，从经营企业的视角战略性地施行健康管理以及介绍在该公司内具体实施的事例。

接着由新疆维吾尔自治区人民医院副院长李南方女士（第7期研究员）以“欠发达地区高血压防控体系的建设与成效”为题进行演讲，介绍了相关的工作内容和成果。之后由日中医学协会副会长/静冈县立静冈癌症中心参事安达勇先生以“贯彻健康长寿及其举措”为题，从健康长寿的视角、遗传因素和环境因素、饮食与肠内细菌的重要性、改善环境后能在什么程度上克服遗传因素等方面进行了演讲。

最后，青岛和睦家医院国际远程会诊平台总监李莉女士（第30期研究员）、新垣整形外科院长新垣实先生、爱知医科大学早期先制统合医疗中心教授兼部长福泽嘉孝先生以共同开展的“中日国际远程会诊合作项目”为题，各自进行了详细的介绍。

## 演讲（日程安排顺序）



- 1) 「日本的健康医疗战略」  
伊藤秀俊 日本国驻华大使馆一等书记官



- 2) 「大数据安全与数字健康解决方案」  
张亨 北京颐康国际智能科技有限公司总经理(第10期研究员)



3) 「日本の健康経営と泰尔茂公司的实践」  
竹田敬治 泰尔茂公司执行董事人事部长  
【线上参加】



4) 「欠发达地区高血压防控体系的建设与成效」  
李南方 新疆维吾尔自治区人民医院副院长  
(第7期研究员) 【线上参加】



5) 「贯彻健康长寿及其举措」  
安達勇 日中医学协会副会长、静岡県立静岡癌  
症中心参事【线上参加】



6) 「中日国际远程会诊合作项目」  
李 莉 青岛和睦家医院国际远程会诊平台总  
监 (第30期研究员)  
新垣 实 新垣整形外科院长【线上参加】  
福泽嘉孝 爱知医科大学早期先制・統合医疗中  
心教授兼部长【线上参加】





## 基层医师呼吸系统疾病培训

由中日笹川医学奖学金项目获得者所组成的笹川同学会谨遵国家医疗政策从2013年起在中国各地，为提高二级医院医生护士技能开展了多种多样的培训。

6月16日（周三）-18日（周五），于中日友好医院面向全国二级医院呼吸科医生共50名开展实施了慢性呼吸系统疾病诊疗康复培训班。考虑到疫情影响，本次培训仅以讲义授课形式进行。

中日友好医院呼吸系统中心杨汀主任医师和贾存波办公室主任作为本次培训班的实施负责人，在中日友好医院的全面配合下，讲义内容都是学员们需求度极高的题目。研究员们希望提高培训规模与频次。李忠金秘书长代表笹川同学会致辞，介绍了笹川奖学金同学会的业务领域和此次支持的主旨，并介绍了本次培训活动是由日本财团资助的。



## 基层医师第二期睡眠呼吸疾病培训



为进一步推动新疆心血管疾病与睡眠呼吸障碍诊疗新技术规范化、标准化，进一步了解该领域的最新进展，国家卫健委高血压诊疗重点实验室、自治区人民医院高血压中心在笹川医学奖学金同学会的支持下于2021年7月29日在乌鲁木齐举办的《第二期睡眠呼吸疾病》学习班，为医学同仁搭建一个相互交流、共同提高的学术平台。

自治区人民医院高血压中心团队精心组织了本届学习班的授课内容，在疫情防控的严峻形势下，学习班采用现场+线上云论坛的形式进行授课，一方面可以邀请多位国内本领域的大咖参与授课，另一方面也可以为新疆多个县、市的基层医生提供一次难得的学习机会。笹川医学奖学金同学会秘书长李忠金出席此次培

训，介绍了笹川奖学金同学会的业务领域和此次支持的主旨，并介绍了本次培训活动是由日本财团资助的。李南方教授（笹川7期）和李忠金秘书长参加了本届学习班的开幕仪式和全天授课。

第二期培训班的开展能让更多的医务人员掌握睡眠呼吸障碍诊疗新技术规范化标准化，带动全疆医学的发展。



## 基层医师妇科腔镜培训



中日笹川医学奖学金获得者所组成的笹川同学会谨遵国家医疗政策从 2013 年起在中国各地，为提高二级医院医生护士技能开展了多种多样的培训。

6 月 26 日（周六）、于吉林省长春市新民宾馆面向吉林省内二级医院妇产科医生共 57 名开展实施了妇科腔镜及高危产科技术培训。考虑到疫情影响，本次培训仅以讲义授课形式进行。

本次在吉林开展的培训由吉林大学第一医院妇产科李娜主任医师（第 25 期生）担任负责人，并受到

吉林大学第一医院的鼎力支持，讲义内容都是学员们需求度极高的题目。本次培训收到学员们的好评，学员们觉得本次培训不仅学到了很多知识和技术，还学到了作为医生责任的重大以及与患者有效沟通的重要性，今后一定在临床当中应用所学，为提高医疗服务水平做出最大的努力。笹川医学奖学金同学会秘书长李忠金出席此次培训，介绍了笹川奖学金同学会的业务领域和此次支持的主旨，并介绍了本次培训活动是由日本财团资助的。

## 基层医师结直肠癌培训

2022 年 3 月 23 日，笹川医学奖学金同学会、中日友好医院共同主办了基层医师结直肠癌培训。

中日友好医院副院长刘勇、笹川医学奖学金同学会秘书长李忠金、中国医学科学院肿瘤医院王锡山教授、中日友好医院院胃肠外科主任周雷教授等专家出席开班仪式。

王锡山教授在致辞中结合我国结直肠癌发病率和死亡率的上升以及生存率与发达国家的差距，指出癌

症三级预防理念的重要性，其既关乎个人与家庭，也关乎到 2030 健康中国建设。中日友好医院承办的此次学术会议是中国抗癌协会所有专委会的 CACA 指南中国行巡讲活动的第一场，并寄语与会专家为提高中国结直肠癌肿瘤防治事业水平贡献力量。

刘勇副院长代表中日友好医院热烈欢迎出席会议的各位嘉宾，并对笹川同学会和中国抗癌协会表示衷心感谢。刘院长希望我院胃肠外科借此论坛举办之机，



互相切磋，借鉴前沿技术，推动学科升级，助力医院高质量发展。

笹川医学奖学金同学会李忠金秘书长在致辞中感谢中日友好医院召集了国内诸多顶级专家开展了此次培训，介绍了笹川医学项目的三项主要活动，并介绍了本次活动是由日本财团资助，希望大家继续关注笹川医学项目后续举办的系列培训活动。

上午的学术环节由北京中医医院肿瘤外科路夷平教授及解放军总医院第一医学中心普通外科学部刘刚教授分别进行了“从ISR看低位直肠癌术后生活质量”及“腹腔镜左半结肠癌根治术探讨”的演讲，并结合相关专题与现场的多位讨论嘉宾进行了热烈而精彩的讨论交流。

下午的学术会议为CACA指南中国行结直肠癌专科解读，哈尔滨医科大学附属第二医院王贵玉教授、我院熊英医师及娄彦妮医师分别对外科、放疗科及内科的相关内容进行了精彩解读，并与线上多位专家对CACA指南提出的整合医学理念进行了深入探讨。

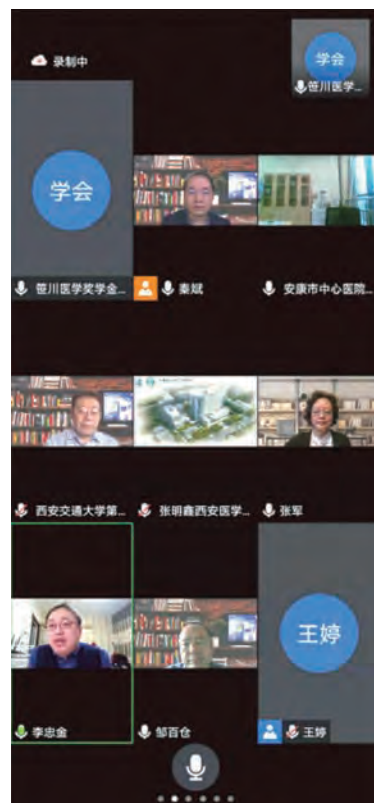
中日友好医院周雷教授在总结发言中指出，中国CACA指南内容全面、细致，结合了中国具体国情和临床实践，纳入了多项中国研究，融合了中医的治疗理念，引领中国、对标国际，与NCCN指南及ESMO指南并驾齐驱，三足鼎立。





## 下消化道内镜基层医生规范化培训

2022年3月26日，由笹川医学奖学金主办，西安交通大学第二附属医院消化内科协办的陕西省“下消化道内镜基层医生规范化培训”于线上举行。首先，由李忠金秘书长讲解了笹川医学奖学金的设立宗旨和未来的规划，并介绍了本次活动是由日本财团资助，希望大家继续关注笹川医学项目后续举办的系列培训活动。西安交大第二附属医院王进海教授讲解了下消化道内镜规范化培训的意义，并表示希望和笹川奖学金长期合作以提高陕西省基层医院的消化道内镜诊治水平。会议讲者来自西安交通大学第二附属医院，西安医学院第一附属医院、西安市人民医院、红会医院及安康市中心医院、安康市中医医院等三甲医院，由邹百仓教授等专家进行了7个专题讲座和4个病例讨论，内容包括“胃癌前状态内镜诊断及管理”“下消化道疾病的内镜下规范诊断”“大肠息肉病变的分型及诊断”“注水肠镜”“结肠病变内镜治疗适应症与并发症”“消化道内镜高频电技术与安全应用”“炎症性肠病内镜下诊断与鉴别诊断”等，来自20余家基层医院的医生参会并积极参与讨论。虽然由于疫情影响培训的线下举行，但此次线上培训内容从内镜诊断到治疗规范，从并发症防治到手术安全，结合典型病例，内容丰富详实，吸引了近100名消化内科医生积极交流，达到了学术交流的目的，取得了良好的培训效果，培训医生反响热烈。最后，西安交大第二附属医院张军教授结合自己受笹川医学奖学金资助留学日本的经历，鼓励基层医生不断学习，规范提高临床诊治能力，最终改善人民群众的健康水平。



## 四川省雅安地域医疗支援活动

中日笹川医学奖学金同学会于2021年7月15日（周四）在四川省雅安市顺利开展了医疗支援活动。这是继去年11月在该地开展首次支援活动以后的第二次开展活动。

此次活动由四川大学华西医院皮肤科冉玉平教授（第4期研究员）带队前往，在地处四川西部的雅安市开展，来自雅安职业技术学院附属医院的20余位医护人员参与了此次活动。首先，冉玉平教授在该院皮肤科门诊开展了义诊工作，他带领该院皮肤科医护人员对近20名患者提供了专业精准的医疗服务。同时在医疗工作的开展中，冉教授对当地医护人员进行



冉玉平教授在雅安职业技术学院附属医院皮肤科



冉玉平教授义诊

了诊疗技术、辅助检查方面的培训和指导。此外3名由冉教授带教的来自四川大学华西医学院的博士研究生针对患者不同病情开展了皮肤镜检查 and 真菌荧光染色检查等辅助诊疗工作。

义诊结束后活动会场转移到皮肤科示教室进行，李忠金秘书长代表笹川同学会对此次项目进行了简短的介绍，指出支援活动既是四川大学华西医院对基层医疗卫生事业的援助，更是中日两国友好关系的重要体现。接下来，来自都江堰医疗中心的黄静红主任代表第一届举办基层医疗支援活动单位对之前开展的活动进行了总结，希望两家单位能够一起努力将这项工作共同开展好。最后，冉玉平教授就皮肤科教学教育实践问题进行了一场名为《授人以渔点石成金》的精彩专题讲座。冉教授的讲座深入浅出、生动形象，在场的医护人员纷纷表示所获良多，受益匪浅。



李忠金秘书长介绍活动背景项目内容



冉玉平教授专题讲座

最后，笹川同学会向雅安职业技术学院附属医院捐赠了皮肤治疗仪、冷喷机，进一步完善了科室硬件设施，将助力科室为患者提供更好的诊疗服务。



捐赠物品交接仪式



捐赠物品



# 新疆玛纳斯地域医疗支援活动



2021年6月11日，笹川同学会基层医疗支援活动一行25人，在新疆区人民医院高血压诊疗研究中心李南方主任的带领下，前往新疆玛纳斯县开展“一对一基层医疗支援活动”。

玛纳斯中医医院副院长陈立新，就医院高血压工作站的运营模式进行了介绍。内容包括患者管理、科室构建、前期准备、未来规划等。

李南方、索菲娅、姚晓光、周克明、王梦卉、蒋文等医生分别从高血压的筛查与防治、鉴别与诊断、特殊类型高血压的诊治等内容进行了报告。

上午50余名基层医生参加了培训，下午团队分三组前往玛纳斯县兰州湾镇、凉州户镇、玛纳斯镇开展义诊。专家们为百姓们测血压、询问病情、查体、开处方，指导患者用药，详细讲解注意事项，耐心解答村民提出的疑问，提供健康咨询，并普及了与日常生活密切相关的医疗卫生保健知识，进一步提高了百姓们的自我保健意识。同时，为高危患者建立健康档案，与乡镇卫生院专职人员对接，为他们提供延续性健康管理服务，为他们解决实际问题提供保障。

李南方主任一行还专程前往玛纳斯县最远的清水河乡肯苏瓦特村，

为30多名患有高血压的村民进行了义诊，在诊治过的患者中，个别患者的血压高达200/100mmHg、还有些患者表示吃不起降压药。义诊结束后，李主任饱含深情地说道：今后我们应在基层、尤其是在偏远地区推广患者能够负担得起的药物，要推出“适合基层的降压药组合方案”，最大限度降低高血压带来的危害，减少高血压并发症的发生。本次义诊中笹川同学会为各乡县医院捐赠了电子血压计以及新疆区人民医院高血压中心团队编写的《高血压的基本知识》教材。

本次基层医疗支援活动累计惠及300余人，提高了当地医务人员以及百姓对高血压危害的认识，得到当地政府和百姓的一致称赞。



## 第44期攻读学位型研究员 语言培训结业典礼



预计 2022 年 4 月赴日的第 44 期攻读学位型研究员语言培训结业典礼于 1 月 14 日（周五）在线圆满召开。

攻读学位型研究员为适应日本的研究生活，赴日前需要参加笹川同学会主办的日语培训。第 44 期研究员的日语培训于去年 11 月 1 日开班，历时 2 个半月的线上授课，中国医科大学外语培训中心的 5 位教授一起上阵，详细耐心的授课和答疑，学员们在短时间内按照各自的日语水平有了不同层次的提高，一些零基础的学员初步掌握了简单的日语会话，为赴日生活学习，打下了良好的基础。

结业典礼上，由日中医学协会久保洋介事务局参

### 结业证书

国家卫生健康委员会  
中国医科大学外语培训中心

与、笹川同学会李忠金秘书长、承办本次日语培训的中国医科大学外语培训中心孙贺一主任对研究员们慰劳和激励的致词后，第 44 期 11 位研究员逐一用日语进行自我介绍，展示了两个半月以来的学习成果。

因为疫情原因，第一次采取线上授课的日语培训，研究员们每天认真听课，一周六天上课，周日抓紧复习，日语理解能力有了显著提高。

笹川同学会李忠金秘书长提出，考虑新冠疫情长期共存的情况，今后可以尝试线上培训提高效率的方法。

## 第40期・41期 < 攻读学位型 > 研究员研究报告会及结业典礼



笹川医学奖学金第40期、41期 < 攻读学位型 > 研究员研究报告会及结业典礼于9月24日（周五），

以在中日两国各地的研究员连线日本财团大楼大会议室（会场）的形式圆满召开。

### ◆ 第40期研究员报告

2018年来日的10名第40期研究员就奖学金授予的2年时间里取得的成绩、现在的活动、今后的抱负等用日语或英语每人做了3分钟的汇报。研究员汇报后，作为指导教官代表由东京大学中岛淳教授做以讲评。







(第 40 期研究员指导教官代表) 东京大学 中岛 淳 教授

讲评 (节选中文译文) :

大家取得了优异的成绩, 研究成果都已英文论文方式投稿。至今为止的奖学金项目都是赴日留学一年, 我想有如此丰富成果的研究员并不多。

留学期间学到的技术和思考方式, 请一定应用于今后在中国的研究中, 希望大家现有的研究取得进一步的研究成果。

### ◆ 第 41 期研究员报告

2019 年来日的 9 名第 41 期研究员就奖学金授予的 2 年时间里取得的成绩、现在的活动、今后的抱负等用日语或英语每人做了 3 分钟的汇报。研究员汇报后, 作为指导教官代表由长崎大学的高村升教授进行了讲评。

研究員紹介

**孟雪**  
*Meng Xue*

【所属機関・部署】  
中国医科大学附属盛京医院  
口腔科(口腔颌面外科)

【留学先】  
顺天堂大学大学院医学研究科  
耳鼻咽喉科学

【指導教官】  
池田 勝久 教授

☆取得学位☆  
顺天堂大学 博士(医学)

現在: 中国遼寧省瀋陽市

Conclusions

- > BP180 protein expression is A poor prognosis in HNSCC
- > Prognostic value
- A significant biomarker for targeted treatment HNSCC

そろそろ2年間の研究を終えるところで、博士学位授予

11<sup>th</sup> May 2021 順天堂大学 (医学)博士      2<sup>th</sup> July 2021 中国医科大学 (口)

中国医科大学第二临床学院  
2021年毕业典礼学位授予仪式

41-4-3



(第 41 期研究员指导教官代表) 长崎大学 高村 升 教授

讲评 (节选中文译文) :

报告会中听到了基础医学, 临床医学, 社会医学等多领域的研究成果发表。所有的研究, 水平非常高, 值得期待将来的发展。

希望大家将留学中所学充分应用于今后的研究中, 成为肩负未来科学的优秀人才, 并且将来成为联系两国的重要人物。

最后, 本项目管辖委员会的日中医学协会日中医学 (日中医学协会—日本财团) 合作委员会新井 一委员长发表总评, 研究报告会圆满结束。



## ◆第 40 期研究员 · 第 41 期研究员结业典礼

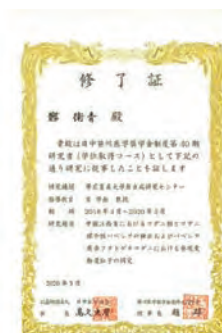
作为本项目实施团体的日中医学协会と笹川医学奨学金进修生同学会领导致词后，由日中医学协会业务执行理事也是本项目管辖委员会的日中医学协会日中医学（日中医学协会—日本财团）合作委员会の新井 一委员长向 19 名研究员颁发修了证书。



(致词) 小川秀兴 日中医学协会理事长



(致词) 赵群 笹川医学奨学金同学会理事长



颁发修了证书

之后、由日中医学协会小川秀兴理事长向第 40 期、41 期研究员中在奖学金授予的两年期间取得博士学位的 9 名研究员授予表彰状。



## ●表彰状获得者

### 第 40 期研究员 (5 名) :

- 徐妍妍: 琉球大学论文博士 (医学) 2020 年 2 月取得
- 许文成: 东京药科大学论文博士 (药学) 2020 年 3 月取得
- 张 顺: 顺天堂大学论文博士 (医学) 2020 年 4 月取得
- 郑卫青: 带广畜产大学论文博士 (畜产卫生学) 2020 年 9 月取得
- 唐春花: 庆应义塾大学论文博士 (医学) 2020 年 12 月取得

### 第 41 期研究员 (4 名) :

- 赵 申: 北海道大学课程博士 (齿科学) 2020 年 3 月取得
- 常立甲: 千叶大学课程博士 (医学) 2020 年 9 月取得
- 崔力萌: 长崎大学、千叶大学、金泽大学共同大学院课程博士 (医学) (长崎大学在籍) 2021 年 3 月取得
- 孟 雪: 顺天堂大学论文博士 (医学) 2021 年 4 月取得

来宾纷纷向研究员们表示祝贺。

最后由在琉球大学留学的徐妍妍女士作为研究员代表发表致谢感言。



(祝辞) 孔铉佑 中华人民共和国驻日本国特命全权大使



(祝辞) 尾形武寿 日本财团理事长



(致谢) 徐 妍妍 研究者代表

我们由衷地祝贺全体研究员，就像孔大使和尾形理事长所说的未来由年轻人去建设。希望你们将在日所学，应用于中国医疗的发展。并且，像尾形理事长所说的将笹川良一日本财团初代会长和邓小平先生的“中日安定的结果促进亚洲乃至世界的安定”话语熟记于心，加深与日方老师的交流，期待你们为中日两国的安定做出贡献。



来宾与研究员合影留念

●来宾

- 中央 孔 铉佑 中华人民共和国驻日本国特命全权大使
- 中央左 1 尾形武寿 日本财团理事长
- 中央左 2 喜多悦子 笹川保健财团会长
- 中央左 3 佐藤英夫 笹川保健财团理事长
- 中央右 1 小川秀兴 日中医学协会理事长
- 中央右 2 新井 一 日中医学协会业务执行理事、本项目管辖委员会委员长
- 中央右 3 吉仓和宏 日本财团常务理事



第 40 期・41 期研究员 (线上参会)



会场全貌



## 留学之忆

第40期攻读博士学位 唐春花（第三军医大学附属三院）

我在樱花烂漫的季节来到日本，站在繁花满树的东京街头，心中充满了初来乍到的彷徨以及对即将到来的未知生活的忐忑。

笹川奖学金与日中医学协会为我们举行了隆重的欢迎仪式，老师们热情洋溢的笑容就像盛开的樱花，温暖而美丽，在四月的和风中播撒，迅速吹散了我心中的不安。在仪式感满满的欢迎会上，我了解了笹川奖学金源远流长的历史，感受到日中医学协会大家庭般的温馨。聆听着长辈的殷殷嘱托，前辈的谆谆教诲，我心中涌出对未来生活的无限憧憬。

宿舍、网络以及去庆应大学的上学路线早已被协会的老师提前安排好了，感恩于协会的周到与细心，我在异国他乡迅速进入了便捷的生活模式，并心无旁骛地融入到学习中。

庆应大学医学部位于新宿区的信浓町，是闹市中的一方净土，走在校园中，能感受到那种深厚的底蕴，开阔的襟怀，灵动的气韵，雄健的风骨在醇厚的书香中浑然天成。学习和研究是充实而忙碌的，从科研方案的设计，实验技术的传授，到论文的修订，成果的发表，庆应大学的老师如日中医学协会的老师一样亲





## 中华人民共和国驻长崎总领事馆

长崎发文[2020]009号

### 感谢信

重庆市大坪医院：

2020年4月，停泊在长崎的意大利籍邮轮歌诗达大西洋号发生新冠肺炎聚集性感染事件，涉及82名中国籍船员。贵院唐春花同志热心参与我馆领保工作，主动投身海外抗疫斗争，利用自身专业知识和临床经验，通过微信与船员建立沟通渠道，及时开展心理咨询，介绍防控知识，为船员缓解焦虑情绪，保持乐观心态发挥了积极作用，用实际行动展现了“白衣天使”的时代风采。

谨向贵院唐春花同志表示衷心感谢。



切而耐心，给与我极大的关怀、宽容与鼓励，感恩于教授的开明、指导老师的严谨以及团队积极快乐的正能量，我在学习中不但获得了知识，也得到了获取知识的乐趣，两年半后顺利完成博士学业，获得博士学位。

虽然生活中难免有思乡的烦恼，但在异国他乡，我并不孤独，因为有组织有集体有归属感，我常常能感到家庭般的温暖。笹川同学会的前辈为我们的业余生活安排了丰富多彩的内容，感恩于前辈的精心安排，我们在学习之余可以有那么多机会去见识异国的人文与美景：伊豆的港湾、长野的山峦，雄伟富士山、壮丽松本城，留下了我们的欢歌笑语；上野的樱花，相模原的绣球，高尾山的红叶，白川乡的雪，让人流连忘返。前辈们不屈不挠的奋斗经历激励我们前赴后继不断努力，前辈们豁达的生活态度也让我体会到珍惜眼前捕捉小确幸的快乐。

留学期间，不幸碰上了“新冠”的流行。日中医学会的老师在第一时间发出捐款倡议书，号召大家各尽所能，支援抗疫，并将我们的爱心捐赠到医疗前线，助力解决燃眉之急！疫情期间，中日两国之间守望相

助的情谊让我感到别样的温情和感动。山川异域，风月同天，我知道每一份善意都将汇集成爱的海洋，终将化为战胜疫情的力量。当时，意大利邮轮“歌诗达大西洋号”停靠长崎，上百名船员确诊感染新冠病毒，一时间船上充满了恐惧、焦虑和无助，我和崔力萌博士临危受命，接受了来自中国驻长崎总领事馆的一份特殊任务——利用自身专业知识和临床经验，为船上82名中国船员提供心理支援和咨询服务。最终，我们圆满完成了任务！身处海外也能有机会在抗疫工作中尽到自己的一份力量，我感到非常自豪。这也是我留学生涯中难以忘怀的一段经历。

我在红叶静美的季节离开日本，回国前科室的老师为我举行了隆重的送别会，殷殷的寄语、深深的祝福和不舍的离别之情，让我感动得落泪。笹川同学会的前辈和伙伴们也为我举行了别开生面的送别仪式，我真是何德何能，得到这么多的厚爱，唯有珍惜这份浓浓的情意，在以后的日子里以更加饱满的斗志去工作、去生活，去奋斗、去进取，永远用一颗感恩的心去铭记这些遇见，去报答这些真诚。

# 我与笹川

## 第41期 攻读博士学位 崔丽萌（北京市疾控中心）

“The journey is the reward”。

2010年大学毕业参加工作后，我就一直感到自身学习和学术能力的不足。因此，工作之余，一直保持着学习本专业知识、英文和日语的习惯。在2016年取得在职硕士学位之后，2017年夏天，我得到了笹川医学奖学金的报名信息。

得到消息当天，我立刻开始在网上寻找心仪的学校、专业和导师。在我发出包括简历、研究意向的邮件的第二天，就得到了我的导师——长崎大学高村升教授的回复。他的回复很简短：我的团队欢迎你。再后来三年的接触中，我发现高村教授就是这种干脆利落的行事风格。但是刚刚接到邮件的时候还是很忐忑。

远隔重洋，从未相识，我就要因为这句欢迎，进入一个完全陌生的环境。

2018年初，在日中医学协会、奖学金同学会各位老师的帮助和支持下，我顺利抵达长崎开始了博士学习。

长崎是个美丽的山海相连的城市，与中国有着悠久交流历史。“长崎今天也下雨”是在我来长崎的第一个梅雨季，一位日本好友介绍给我的。时至今日，北京下雨的日子，我便听起这首歌——大多是邓丽君小姐的版本。古早的石板路和雨中闪闪的青苔，远藤周作的书卷就立时在眼前铺开，暂回长崎。从家中窗户望出去，似是昭和时代的雨穿越时光重重敲下，能够

### 中华人民共和国驻长崎总领事馆

长崎发文[2020]010号

#### 感谢信

北京市疾病预防控制中心：

2020年4月，停泊在长崎的意大利籍邮轮歌诗达大西洋号发生新冠肺炎聚集性感染事件，涉及82名中国籍船员。贵中心崔力萌同志热心参与我馆领保工作，主动投身海外抗疫斗争，利用自身专业知识和临床经验，通过微信与船员建立沟通渠道，及时开展心理咨询，介绍防控知识，为船员缓解焦虑情绪、保持乐观心态发挥了积极作用，用实际行动展现了“白衣天使”的时代风采。

谨向贵中心崔力萌同志表示衷心感谢。

中国驻长崎总领事馆  
2020年11月25日







朦胧望见长崎港，水边公园不时传来轮船的汽笛。在那里，当梅雨季过去，会有花火大会，会有穿着传统服饰的情侣，会有捞金鱼的孩子，又有演出的乐队，来自各地、各国的游人。这些景象总是奇艺的交织在一起，就像长崎一直以来那样，日本、中国和西洋，新时代与旧时代闪烁交缠。

我的博士研究方向是福岛核事故后的环境恢复状况调查。开展研究之后，我与高村教授、折田老师、平良老师经常往返福岛进行环境调查、样品采集、与居民风险沟通等。2011年福岛核事故发生时，正值我上班第二年，我单位负责了北京地区环境样品放射性调查工作。而能够亲身赴福岛地区进行调查，是我一直以来都非常好奇和向往的。每次前往，我总会进一步了解福岛，了解核事故后的恢复进程，我获得

不仅仅是科学意义上的大量数据。通过与居民的对话，我听到了他们想说的话，他们对于故乡的留恋，他们对于不再归家的儿女的思念。

三年很快过去，随着去污染的进程，我研究的区域富冈町的夜之森区从归还困难区（放射性污染较高）重新对公众开放。我见证了这些变化，看到一片废墟变为整洁的街道和新干线车站，我真实感受到我的研究不仅是一篇篇冰冷的论文，也给当地的恢复尽了一份心力。

2021年初，由于达到提前毕业标准，我以三年时间拿到了先进预防医学博士学位。挥别恩师和好友，回到了祖国。这是一段不短的旅途，不问结果，经历的一切本身就是奖赏，未来人生亦是如此。



# 笹川医学奖学金与我

第41期 攻读博士学位 孟雪（中国医科大学附属盛京医院）

和笹川结缘，真是我人生当中浓墨重彩的一笔，感谢笹川让我有机会见识外面的世界。我最早在大学本科阶段就开始接触日语，内心里早早就萌生去日本留学的想法。有幸的是，2018年的夏天知道了笹川奖学金，正好赶上开展第五期项目，其中还有来日本攻读博士学位的机会，真是机会难得。虽然距离截止日期不到两个月，从准备雅思考试，联系学校和导师，到复杂的材料审核，但我毫不犹豫递交了申请书。这些要感谢国内科室主任刘维贤教授的鼓励和支持，感谢笹川同学会和日中医学协会的帮助，感谢日本顺天堂大学国际交流中心和日本导师池田教授的接收，最后我顺利通过了面试选拔，拿到了奖学金。

2019年4月顺利来到日本，当我我拖着箱子从地铁中走出来的时候，那里干净的街道，清新的空气，匆匆行走的人群，这一切让我肃然起敬。友好的日本老师和朋友，不管有什么困难，他们会及时帮助，让我很快适应了新环境，开始了潜心学习和研究。在这两年的学习中，师从日本顺天堂大学耳鼻咽喉头颈外

科池田勝久教授和松本文彦先任准教授。先后在日本国立癌症研究中心和日本医科大学研修学习，并得到了本田一文教授和三浦奈美教授等多位老师的关心和指导，先后发表5篇高质量的学术论文，并获得公益财团法人国际耳鼻喉科学振兴会助成金一项，在学术会议口头发言两次，海报展示三次。这些研究成果受到教授和同行的认可，经过顺天堂大学评审委员审核，获得了医学博士学位，顺天堂大学校长新井一教授亲自颁发了“学位記”。

两年的时间是短暂的，紧张的学习生活之余还参与了许多增进两国友谊的社会实践活动。不仅在科研能力方面得到了提高，而且拓宽了视野和思想层次。目前已经回国，已经投入到临床工作中，决心要把在日本的所学所知应用到临床实践，慢慢消化这两年的知识积累，不断成长，在自己专业领域发挥更大的潜力，将来不仅要为日中两国的医学贡献力量，还要为促进两国人民友好感情和健康福祉贡献力量。



我和池田勝久教授



顺天堂医局动物手术实习

# 笹川医学奖学金与我

第41期 攻读博士学位 常立甲（石家庄市第四医院）

时光飞逝，转眼间我已经在日本求学4年。目前已顺利毕业并获得医学博士学位。但是让我依旧感到幸运的是，在2018年接触到了笹川医学奖学金以后，我也很幸运地申请到了笹川医学奖学金。作为第41期生，我想我首先要感恩遇见，感谢我们的祖国，感谢笹川医学奖学金；更要感谢我们中日医学会以及笹川奖学金同学会的各位老师默默的付出，使得我们在日学习期间能够顺利完成各项工作，能够学有所成。当接到同学会吴老师邀稿时，心情很激动。但是在之后一段时间里，我也一直在诚惶诚恐，不知该如何简短地写好笹川医学奖学金与我的故事。题目很小却也很大，因为融入笹川医学奖学金同学会后，我见到了太多优秀的前辈。同时，也更加认识到了自己的不足。所以在此我想以学习的方式分享一下我对笹川医学奖学金的感悟。

回顾历史，汲取力量，我们才能更好前行。1986年，中国卫生部（现中华人民共和国国家卫生健康委员会）

与日本笹川纪念保健协力财团、日中医学协会共同实施了为期十年的笹川医学奖学金第一期项目。1996年和2007年，双方分别再次签订了为期十年的中日笹川医学研究员第二期项目，和为期五年中日笹川医学奖学金第三期项目。风雨兼程25载，该项目意义重大，影响深远，帮助中国在提高医疗、护理水平方面做出了巨大的贡献。目前，该项目成为了中日医学领域的合作交流中最重要的组成部分，承载了重要的科学与健康使命，架起了一座珍贵的友谊与合作之桥。2013年5月，中华人民共和国卫生健康委员会马晓伟主任与日本财团尾形武寿理事长共同签署了又一个为期五年的中日笹川医学奖学金第四期项目。自2017年，中日笹川医学奖学金项目，即第五期项目开始实施后，中日医学交流形式有了新的变化。第五期项目开始变由“攻读学位型”和“共同研究型”两部分组成。特别幸运的是，2019年我也成为了该项目的获益者，第41期攻读学位型的笹川生。站在很多前辈走过的路上，





我想我是多么的幸运，能有机会和他们接续这样的缘分。能拥有一段这样不平凡的人生经历，感恩我生命中遇到的你们。至今，笹川医学奖学金项目已经走过了36年，很多前辈和长辈已经成为了历史的见证人。我想，此刻，我们的心情是一致的，愿友谊之树长青，愿中日笹川医学奖学金项目成为我们永远的情感纽带。

融入笹川大家庭，我收获很多。来日之前，我工作于河北省石家庄市第四医院产前诊断中心，从事产前筛查与产前诊断等相关工作。探索医学未知，真的是永无止境。工作以后，也逐渐发现很多同事都非常优秀，专业知识和科研能力都很强，我想我应该以他们为榜样。因此也一直还希望可以有机会进一步深造学习。很幸运的是2016年，我结识了日本千叶大学社会精神保健教育研究中心的桥本谦二教授。2017年10月，通过大学的博士入学考试，前往千叶大学攻读神经科学专业博士学位。2018年，我首次通过我的爱人接触到了笹川医学奖学金项目，当时也是希望她通过这个项目来日本和我一起有机会共同学习，共同进步。但是，她由于报名条件没有达到，与笹川医学奖学金擦肩而过。而我很幸运的是报名并通过了中日笹川医学奖学金项目攻读学位型面试。2019年4月，我正式成为了第41期攻读博士学位型的笹川生。工作后又出国学习，我真的很珍惜这样的机会，所以周六日也大都成为了实验室的常客，希望多做一点成绩出来。此后的日子里也都一直这样坚持到了现在。可以这样有条不紊地在海外学习，我想笹川医学奖学金项目给了我很大的支持。有的时候在国外的学习是孤独的，但在笹川这个大家庭里，我看到了一种爱与被爱的力量，也让我感受到了爱的力量，感受到了集体的温暖。在日本学习，不论是工作上事情，还是生活上事情，只要我联系到同学会的前辈或者日中医学协会的老师，他们都第一时间给予了我最大的帮助。在此，也特别要谢谢李高娃老师，感谢李老师提供的诸多帮助。因此，希望有一天我也能够给予别人一点力量。同时，在这个项目里我也接触到了很多的笹川奖学金同学会的前辈和41期的很多同学。他们真的都太优秀了，看到他们取得的好成绩，我也由衷地祝福他们，希望未来更好。

至此，全球很多国家还处于新冠病毒的肆虐中，人类的健康因此受到了严重威胁。世界卫生组织驻华代表高力曾于2020年4月4日的官微所示：此时此



刻，我们驻足默哀，以纪念那成千上万名来自各行各业、因冠状病毒病而逝去的人们。这个病毒从不挑选受害者，它带走的宝贵生命有学生和老师，有祖父母和孙子孙女，有银行家和建筑工，有医生和护士，有工程师和农民，还有我们的邻居、朋友和家人。“2020年4月4日”这是一个永远值得铭记的日子。他们虽已不再与我们并肩作战，但他们的生命将汇聚成一种力量，激励我们继续前进。医学探索永无止境，唯有不断学习，创新钻研，才不负生命之所托。所幸之事，我们选择了医学事业，我们既是“笹川人”，也是“追梦人”。特别是在日留学期间，我也收到了来自祖国的“健康包”，和来自日中医学协会的一包一包的口罩。让我在日本，可以安心学习。在此，也特别感谢中国驻日本大使馆的工作人员以及我所留学的千叶大学留学生学友会的小伙伴们。虽身在海外，但感觉家就在身边。

最后，还是要真诚的感谢笹川医学奖学金项目的资助，感谢中日笹川医学奖学金项目办公室的老师，感谢日中医学协会的老师。感谢与笹川医学奖学金项目的相遇，让我收获了很多美好的回忆，收获一段不平凡的学习经历。寒来暑往，一年四季的变换，不变的是我们对未来的探索。未来，我会依然坚定前行的脚步，以一名“笹川生”的身份践行社会责任，勇于担当。同时，更希望中日医学交流合作不断取得更多新的发展，让友谊之花结出更多更多的果实。



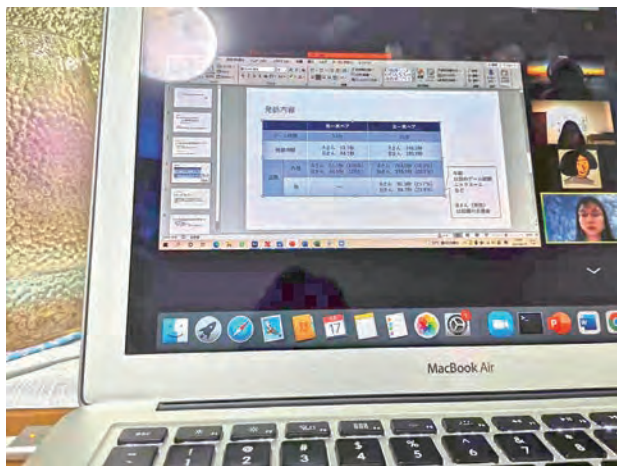
# 我的线上学习生活小记

第44期 攻读博士学位 周英

我是第44期笹川医学奖学金(博士)获得者周英。本应在2021年4月前赴日本金泽大学学习博士课程。却因疫情原因,至今仍在国内通过线上方式与导师沟通和上课。在线上学习的这一年,有好有坏,也萌生出一些新的感悟,写在这里供读者消遣。

起初,我对线上学习不太适应。使用手机登陆会议软件和老师交流,因为不熟悉页面,整个人就横着脑袋和老师说话,觉得既辛苦又好笑。后来把手机放在支架上,音量开到最大也听不清老师的声音,以为是老师的网络或者声卡有问题,一直对老师说我听不清楚听不清楚,最后才发觉是自己的支架挡了手机的扬声器。这样的乌龙事件在初始线上学习时经常发生,老师虽然无奈但也十分 nice,居然成为了无法面对面上课的课堂气氛的活跃剂。现在不太会发生这样的低级错误了,基本上一有问题,脑子里已经有了一套完整的检查流程,没有 bug 了(笑)。

再后来慢慢习惯了线上学习,固定使用电脑,上课之前点好链接等待老师上线。这期间也对包括“共享文件”或“录屏”等功能在内的软件使用都了如指掌,越发如火纯青。渐渐还开发出了线上学习的方便之处,起了床刷个牙穿着睡衣裤也能上好课(笑)。据说金泽每年都会大雪封山,下大雪的时候,原本在现场上课的同学也会和我一样使用线上学习的方式。看着老师和同学的脸,虽然隔着屏幕,也依然觉得亲切。但总盯着屏幕有时也容易走神,正在神游呢,突然被老师 cue 到发言才是大脑转速最快的时候,赶紧从脑子里扒拉几句好像听见了又好像没听见的语句来组织语言。尤其是关了自己的摄像头后就可以横着竖着躺着趴着听课了,但是为了端正听课姿势也为了不走神,



给自己定下了一直保持摄像头开启状态的规矩。

保持摄像头开启状态,端坐在书桌前也是对老师和其他发言同学的尊重,自己发言的时候如果其他同学都关闭了摄像头,我会觉得没了听众,看不到对方的反应,无法判断自己说的是否太快或者太慢。所以,这是我给自己定的一项线上课堂纪律吧。

总之,线上学习虽然无法身临其境,但也有它的方便之处。它为我们解决了疫情期间无法赴现场学习的大问题。未来如果能够赴日,可能还会怀念这段线上起个床刷个牙就能学习的美好时光(笑)。

最后,感谢笹川医学奖学金同学会和日中医学协会的老师,在我无法赴日的在线学习期间,多次主动询问我们的学习情况,询问我们是否有困难需要解决和帮助。还经常在我们的同学群中为我们及时转发转达信息,回答我们的各种疑问。对每个同学都无微不至的照顾到。这让我很开心和荣幸成为同学会的一员!

## 守护的承诺

### ——冬奥值班有感

第41期 共同研究 李博（首都医科大学附属北京中医医院）

没有激情的大回转，也没有热烈的掌声，但是我们依然激情满满，我们在守护这份冬奥的承诺。

一个成功的男人后面，会有一个体贴的和温柔持家的妻子，这是夫妻的配合和家庭的承诺，对于冬奥保障来说，不仅是两方的默契配合，而是多个维度的相互交错，单单医疗保障来说，就有内科，外科，中医，针灸，康复，妇科，口腔，120 转运，预检分诊等全

套全天候 24 小时的保障。

坐在诊室里，没有像滑雪医生那样冲锋陷阵的英姿飒爽，也一度失落，英雄无用武之地，让时光白白流转，诊室里踱步如坐针毡，随诊内息逐渐平静。

忽然想起了有一年国庆阅兵《备飞》的作品，演绎的就是经过艰苦训练，但却在国庆阅兵这天，默默的做了备用的起飞，饮恨长空，却最终骄傲万分。因为，







不在场，不代表没有参与和贡献，正是因为娴熟的技术和服从组织的大局意识，和队友一起保障了国庆阅兵的顺利进行。

而我们，也是这样，岁月静好，却暗流涌动，我们必须默默负重前行，也许大家并没有注意，只看到运动和裁判员的英姿飒爽，而没有注意到，滑雪场旁边默默守护的滑雪医生，警惕的眼光，以及在深夜，大家都睡着了的凌晨，我们诊所的急诊内科外科以及护士们，已经红红的眼睛，但是仍然可以感觉得到，他们不敢稍有懈怠的目光。从整个冬奥村来看，寂静的夜空，繁星点点，而我们综合诊所灯光，犹如整个世界中，为健康救护守候最靓的那一盏灯，很多运动员来诊所，都跟我们说，睡觉前，以及夜晚看到我们的灯光，就觉得特别的安心。

还记得我的值班在大年初一。迎着新年的第一缕还没有出来的阳光，大家用新年的祝福开启了这一天普通和意义非凡的工作。其实，我们在冬奥村工作没有星期几的概念，也没有节假日的印象，只有自己排班表上的出勤与非出勤。按照门诊工作是 16 个小时，急诊 24 小时，进行无缝对接的工作配合。这是按照

奥组委的传统和规定，和平时在单位上班不同。所以我们必定是披星戴月，早 7 点到岗，23 点结束，熟悉内科诊疗是我们的日常技能和工作，用英语交流和处方也是必修课。团结协作中，每个人要站好自己的岗，奉令行动，密切配合，才能共同维护冬奥村诊所大家庭。我们的值班就像是奥运的火炬传递，这一班岗，传递给下一班，形成无缝链接的健康和急救守护。

今夜我们的没有出动，是我们的承诺，今夜我们出动，也是承诺，平时做的好，防患于未然做的更好，就会保障冬奥的医疗顺利进行。

超喜欢谷爱凌 1620 这个动作展现的美，超然夺冠，从整个过程来看，我觉得这不是比赛，这是她的生活，不是为奥运而生，而是奥运为她而生，融入生活，并非要赢得胜利，而是金牌顺其自然。无欲则刚，天然则美。体育，音乐和艺术是如此，中医更是如此，恬淡虚无，真气从之。越自然的，越展现给大家的是最美的，也是最健康的。

而我们无言的守护承诺，也是这样，把中西医学的技能融入我们的生活，急救和健康呵护就是我们的生活，无论是冬奥，还是平时，一诺千金，一起向未来。



## 笹川医学奖学金归国者同学会

北京西直门北大街联慧路101西晴公寓C座0248室

电话 010-62256266 15901208067 传真 010-62256266

网址 <http://www.sskw.net> 邮编 100082

Email [sc1000@vip.163.com](mailto:sc1000@vip.163.com)

公益財団法人日中医学協会  
TEL 03-5829-9123  
FAX 03-3866-9080  
〒101-0032 東京都千代田区岩本町 1-4-3  
住 泉 K M ビ ル 6 階  
URL : <https://www.jpcnma.or.jp/>